

プログラマブルコントローラ CS1D-CPU□□S シリーズ

置き換えガイド

CS1D-CPU□□S から CS1D-CPU□□SA へ

形 CS1D-CPU42S

形 CS1D-CPU44S

形 CS1D-CPU65S

形 CS1D-CPU67S

形 CS1D-CPU44SA

形 CS1D-CPU67SA



Replace
Guide

■ はじめに

本誌は置き換えにあたって選定の参考となる内容を記載しており、ご使用上の注意事項などは掲載しておりません。

実際の置き換えにあたっては必ず置き換え元および置き換え後の機種ของผู้ーズマニュアルをお取り寄せいただき、ご使用上の注意事項等ご使用の際に必要な内容をお読みいただき、十分に動作確認を行ったうえでご使用ください。

■ 関連マニュアル

Man.No.	表記
SBCA-318	CS1D デュプレックスシステム ユーザーズマニュアル セットアップ編
SBCA-313	CS/CJ/NSJシリーズ ユーザーズマニュアル プログラミング編
SBCA-351	CS/CJ/NSJシリーズ コマンドリファレンス マニュアル
SBCA-304	CS/CJ/CP/NSJシリーズ 通信コマンド リファレンスマニュアル
SBCA-346	CX-One セットアップ マニュアル
SBCA-337	CX-Programmer オペレーションマニュアル
SBCA-338	CX-Programmer オペレーションマニュアル ファンクションブロック編/ストラクチャードテキスト編
SBCA-348	CX-Programmer オペレーションマニュアル SFC編
SBCA-347	CX-Integrator オペレーションマニュアル

ご承諾事項

「当社商品」について特別の合意がない場合には、お客様のご購入先にかかわらず、本ご承諾事項記載の条件を適用いたします。

● 定義

本ご承諾事項中の用語の定義は次のとおりです。

- ・「当社商品」:「当社」の FA システム機器、汎用制御機器、センシング機器、電子・機構部品
- ・「カタログ等」:「当社商品」に関する、ベスト制御機器オムロン、電子・機構部品総合カタログ、その他のカタログ、仕様書、取扱説明書、マニュアル等であって電磁的方法で提供されるものも含まれます。
- ・「利用条件等」:「カタログ等」に記載の、「当社商品」の利用条件、定格、性能、動作環境、取り扱い方法、利用上の注意、禁止事項その他
- ・「お客様用途」:「当社商品」のお客様におけるご利用方法であって、お客様が製造する部品、電子基板、機器、設備またはシステム等への「当社商品」の組み込み、または利用を含みます。
- ・「適合性等」:「お客様用途」での「当社商品」の(a)適合性、(b)動作、(c)第三者の知的財産の非侵害、(d)法令の遵守および(e)各種規格の遵守

● 記載事項のご注意

「カタログ等」の記載内容については次の点をご理解ください。

- ・定格値および性能値は、単独試験における各条件のもとで得られた値であり、各定格値および性能値の複合条件のもとで得られる値を保証するものではありません。
- ・参考データはご参考として提供するもので、その範囲で常に正常に動作することを保証するものではありません。
- ・利用事例はご参考ですので、「当社」は「適合性等」について保証いたしかねます。
- ・「当社」は、改善や当社都合等により、「当社商品」の生産を中止し、または「当社商品」の仕様を変更することがあります。

● ご利用にあたってのご注意

ご採用およびご利用に際しては次の点をご理解ください。

- ・定格・性能ほか「利用条件等」を遵守しご利用ください。
- ・お客様ご自身にて「適合性等」をご確認いただき、「当社商品」のご利用の可否をご判断ください。「当社」は「適合性等」を一切保証いたしかねます。
- ・「当社商品」がお客様のシステム全体の中で意図した用途に対して、適切に配電・設置されていることをお客様ご自身で、必ず事前に確認してください。
- ・「当社商品」をご使用の際には、(i)定格および性能に対し余裕のある「当社商品」のご利用、冗長設計などの安全設計、(ii)「当社商品」が故障しても、「お客様用途」の危険を最小にする安全設計、(iii)利用者に危険を知らせるための、安全対策のシステム全体としての構築、(iv)「当社商品」および「お客様用途」の定期的な保守、の各事項を実施してください。
- ・「当社」は DDoS 攻撃(分散型 DoS 攻撃)、コンピュータウイルスその他の技術的な有害プログラム、不正アクセスにより、「当社商品」、インストールされたソフトウェア、またはすべてのコンピュータ機器、コンピュータプログラム、ネットワーク、データベースが感染したとしても、そのことにより直接または間接的に生じた損失、損害その他の費用について一切責任を負わないものとします。
お客様ご自身にて、①アンチウイルス保護、②データ入出力、③紛失データの復元、④「当社商品」またはインストールされたソフトウェアに対するコンピュータウイルス感染防止、⑤「当社商品」に対する不正アクセス防止についての十分な措置を講じてください。
- ・「当社商品」は、一般工業製品向けの汎用品として設計製造されています。従いまして、次に掲げる用途での使用は意図しておらず、お客様が「当社商品」をこれらの用途に使用される際には、「当社」は「当社商品」に対して

一切保証をいたしません。ただし、次に掲げる用途であっても「当社」の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合は除きます。

- (a) 高い安全性が必要とされる用途(例: 原子力制御設備、燃焼設備、航空・宇宙設備、鉄道設備、昇降設備、娯楽設備、医用機器、安全装置、その他生命・身体に危険が及ぶ用途)
- (b) 高い信頼性が必要な用途(例: ガス・水道・電気等の供給システム、24 時間連続運転システム、決済システムほか権利・財産を取扱う用途など)
- (c) 厳しい条件または環境での用途(例: 屋外に設置する設備、化学的汚染を被る設備、電磁的妨害を被る設備、振動・衝撃を受ける設備など)
- (d) 「カタログ等」に記載のない条件や環境での用途

・上記の(a)から(d)に記載されている他、「本カタログ等記載の商品」は自動車(二輪車含む。以下同じ)向けではありません。自動車に搭載する用途には利用しないで下さい。自動車搭載用商品については当社営業担当者にご相談ください。

● 保証条件

「当社商品」の保証条件は次のとおりです。

- ・保証期間 ご購入後 1 年間といたします。
(ただし「カタログ等」に別途記載がある場合を除きます。)
- ・保証内容 故障した「当社商品」について、以下のいずれかを「当社」の任意の判断で実施します。
 - (a) 当社保守サービス拠点における故障した「当社商品」の無償修理
(ただし、電子・機構部品については、修理対応は行いません。)
 - (b) 故障した「当社商品」と同数の代替品の無償提供
- ・保証対象外 故障の原因が次のいずれかに該当する場合は、保証いたしません。
 - (a) 「当社商品」本来の使い方以外のご利用
 - (b) 「利用条件等」から外れたご利用
 - (c) 本ご承諾事項「ご利用にあたってのご注意」に反するご利用
 - (d) 「当社」以外による改造、修理による場合
 - (e) 「当社」以外の者によるソフトウェアプログラムによる場合
 - (f) 「当社」からの出荷時の科学・技術の水準では予見できなかった原因
 - (g) 上記のほか「当社」または「当社商品」以外の原因(天災等の不可抗力を含む)

● 責任の制限

本ご承諾事項に記載の保証が、「当社商品」に関する保証のすべてです。

「当社商品」に関連して生じた損害について、「当社」および「当社商品」の販売店は責任を負いません。

● 輸出管理

「当社商品」または技術資料を、輸出または非居住者に提供する場合は、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の法令・規制を遵守ください。お客様が法令・規則に違反する場合には、「当社商品」または技術資料をご提供できない場合があります。

スクリーンショットはマイクロソフトの許諾を得て使用しています。

記載されている会社名と製品名などにつきましては、各社の登録商標または商標です。

EtherNet/IP™ および DeviceNet™ は ODVA の商標です。

CS1D-CPU□□S 置き換えガイド

CS1D-CPU42/44/65/67S から CS1D-CPU44/67SA へ

Document Change Summary

REV.	PAGES	REMARKS	DATE
A	---	新規作成	2021/1/27

Table of Contents

1. 仕様	3
1.1. CS1D-CPU□□S と CS1D-CPU□□SA の仕様の差異	3
2. 作業フロー	4
2.1. メモリカード（HMC-EF□□□）を用いた簡易バックアップによる方法	4
2.2. サポートツール（CX-Programmer）を用いた方法	5
3. ユニットを用意する	6
3.1. CPU ユニットについて	6
3.2. その他のユニット・電源について	6
4. メモリカード(HMC-EF□□□)を用いた簡易バックアップでの置き換え方法	7
4.1. メモリカードを用意する	7
4.2. CS1D-CPU□□S のデータをメモリカードに保存する	7
4.3. 装置のユニットを CS1D-CPU□□SA へ置き換える	7
4.4. メモリカードのデータを CS1D-CPU□□SA に書き込む	8
5. サポートツール(CX-Programmer)を用いた置き換え方法	9
5.1. 使用可能サポートツールについて	9
5.2. CS1D-CPU□□S からデータを読み出す(CX-Programmer)	9
5.3. CS1D-CPU□□S からルーチングテーブルを読み出す(CX-Integrator)	12
5.4. CS1D-CPU□□S からデータリンクテーブルを読み出す(CX-Integrator)	16
5.5. プログラムを CS1D-CPU□□SA 用に変換・変更する	21
5.6. 装置のユニットを CS1D-CPU□□SA へ置き換える	23
5.7. CS1D-CPU□□SA へデータを書き込む(CX-Programmer)	23
5.8. CS1D-CPU□□SA へルーチングテーブルを書き込む(CX-Integrator)	25
5.9. CS1D-CPU□□SA へデータリンクテーブルを書き込む(CX-Integrator)	29

1. 仕様

1.1. CS1D-CPU□□S と CS1D-CPU□□SA の仕様の差異

以下に仕様の差異を示します。

Table 1-1. 仕様比較表

仕様	形式	形 CS1D-CPU□□S	形 CS1D-CPU□□SA	備考
入出力点数 (増設数)		42S : 960 点 (2 ラック) 44S : 1,280 点 (3 ラック) 65/67S : 5120 点 (7 ラック)	44SA : 1,280 点 (3 ラック) 67SA : 5120 点 (7 ラック)	
プログラム容量(ステップ)		42S : 10K 44S : 30K 65S : 60K 67S : 250K	44SA : 30K 67SA : 250K	
拡張データメモリ(EM)		42/44S : 32K ワード×1 バンク 65S : 32K ワード×3 バンク 67S : 32K ワード×13 バンク	44SA : 32K ワード×1 バンク 67SA : 32K ワード×13 バンク	
消費電流		42/44S : DC5V 0.79A 65/67S : DC5V 0.82A	44/67SA : DC5V 0.82A	
プログラム言語		ラダー図 インストラクションリスト(IL)	ラダー図 ST SFC インストラクションリスト(IL)	CS1D-CPU□□SA では、ファンクションブロックのオンラインエディットも可能です。
ファンクションブロック(FB)		使用不可	使用可能	
オンラインエディット		ラダー図のみ可能	ラダー図、ST、SFC で可能	
配列変数		使用不可	使用可能	注 : CS1D-CPU□□S と CS1D-CPU□□SA では、命令実行時間が異なる場合があります。置き換え後は、装置が置き換え前と同一の動作となっていることをご確認ください。
STRING 型変数		使用不可	使用可能	
命令実行時間 (LD 命令処理速度)		42/44S : 0.04 μ s 65/67S : 0.02 μ s	44/67SA : 0.02 μ s～	

2. 作業フロー

置き換え作業には以下の 2 種類があります。いずれかを選択して実施してください。

- (1) メモリカード (HMC-EF□□□) を用いた簡易バックアップによる方法
- (2) サポートツール (CX-Programmer) を用いた方法

2.1. メモリカード (HMC-EF□□□) を用いた簡易バックアップによる方法

- ① 準備作業：置き換え前に準備する内容を示したものです。

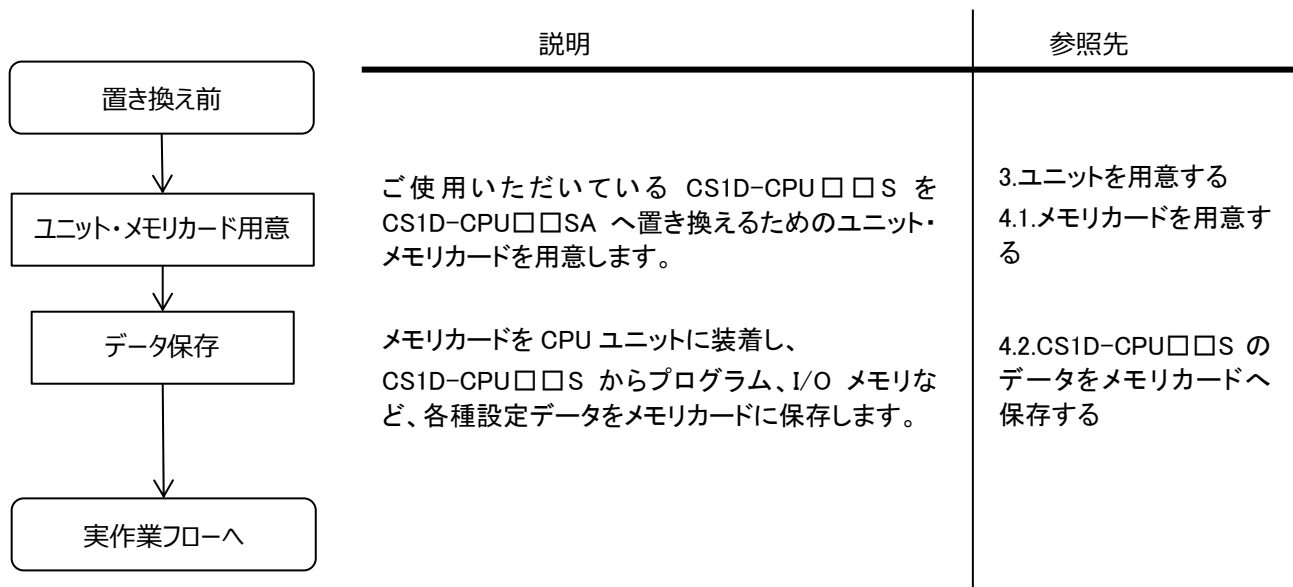


Figure 2-1 :準備作業フロー

- ② 実作業フロー：実際に CS1D-CPU□□S から CS1D-CPU□□SA への置き換えを行う内容を示したものです。

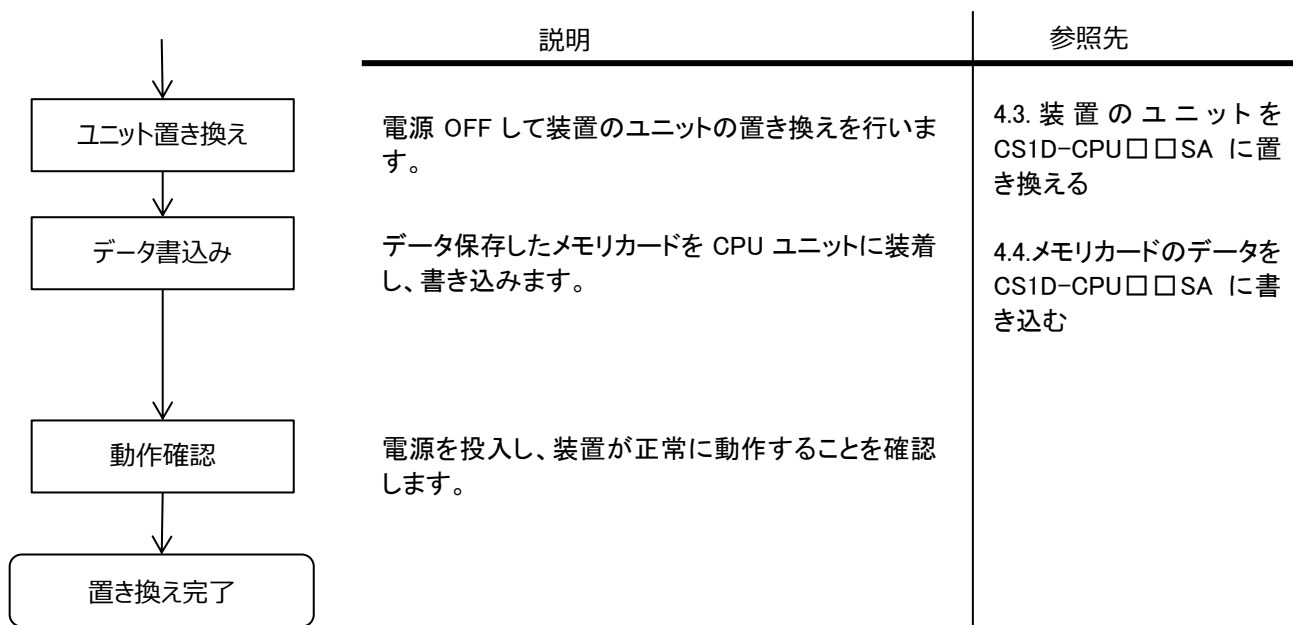


Figure 2-2 :実作業フロー

2.2. サポートツール（CX-Programmer）を用いた方法

- ① 準備作業：置き換え前に準備する内容を示します。

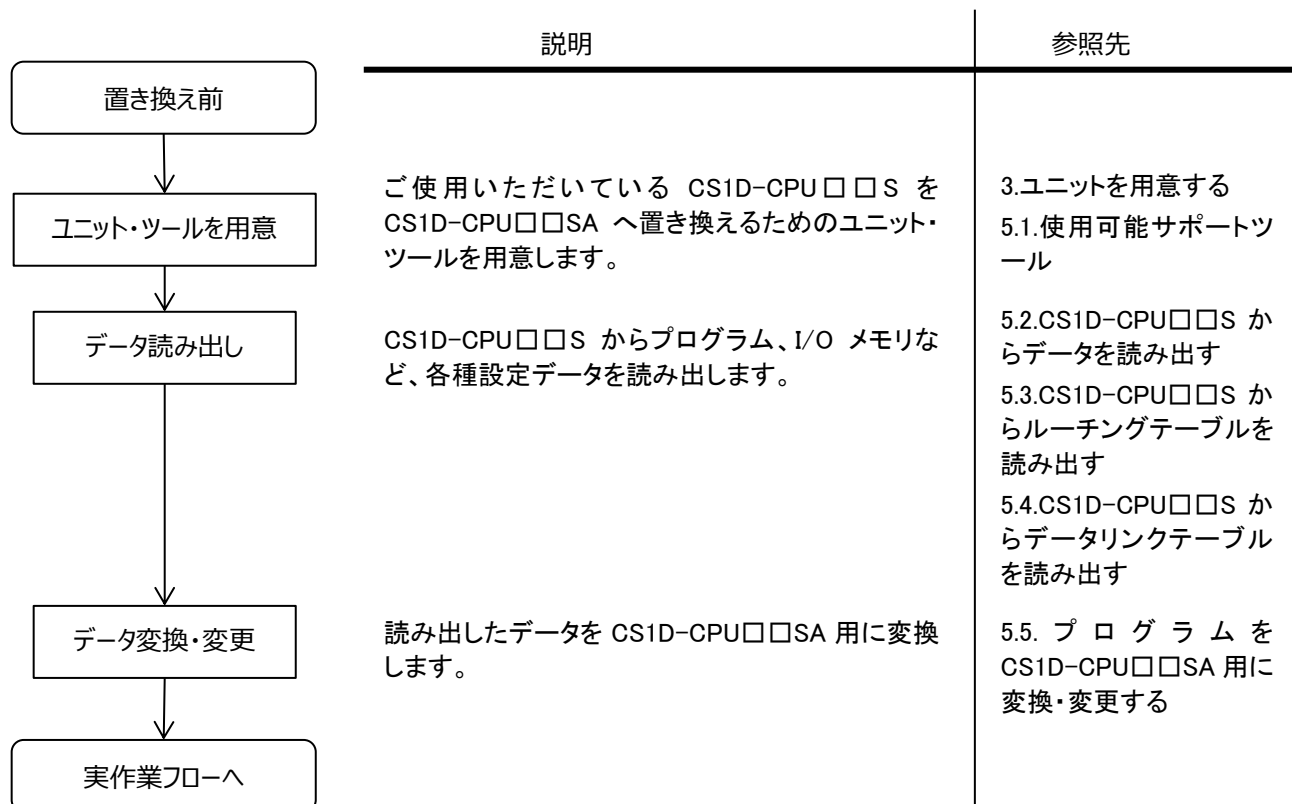


Figure 2-3 :準備作業フロー

- ② 実作業フロー：実際に CS1D-CPU□□S から CS1D-CPU□□SA への置き換えを行う内容を示します。

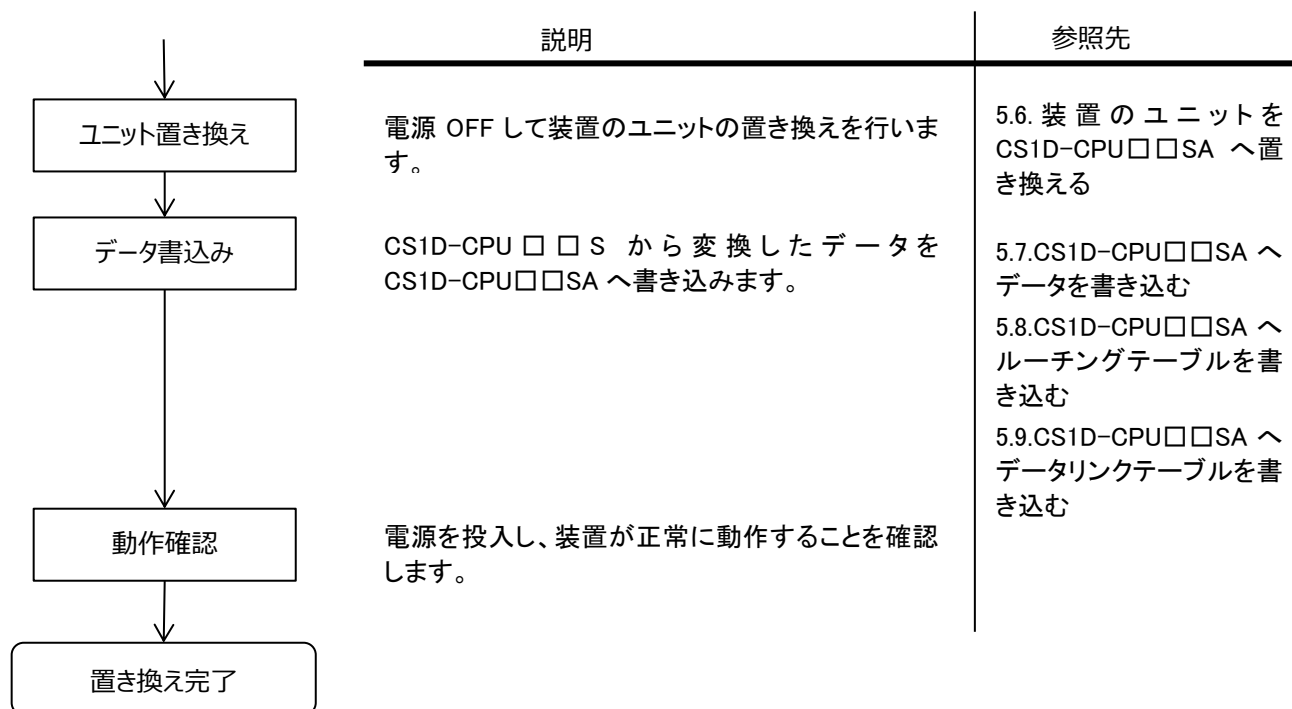


Figure 2-4 :実作業フロー

3. ユニットを用意する

3.1. CPU ユニットについて

CS1D-CPU□□S を CS1D-CPU□□SA へ置き換えます。

推奨する置き換え CPU ユニットは以下のとおりです。

CS1D-CPU□□S（置き換え元）	CS1D-CPU□□SA（置き換え先）	備考
形 CS1D-CPU42S	形 CS1D-CPU44SA	
形 CS1D-CPU44S	形 CS1D-CPU44SA	
形 CS1D-CPU65S	形 CS1D-CPU67SA	
形 CS1D-CPU67S	形 CS1D-CPU67SA	

3.2. その他のユニット・電源について

CS1D-CPU□□S でご使用のユニット・電源はそのまま CS1D-CPU□□SA で使用可能です。

注：置き換えの際、既存ユニットを継続して使用する場合には、製品寿命を考慮の上、ご使用をお願いします。

4. メモリカード(HMC-EF□□□)を用いた簡易バックアップでの置き換え方法

4.1. メモリカードを用意する

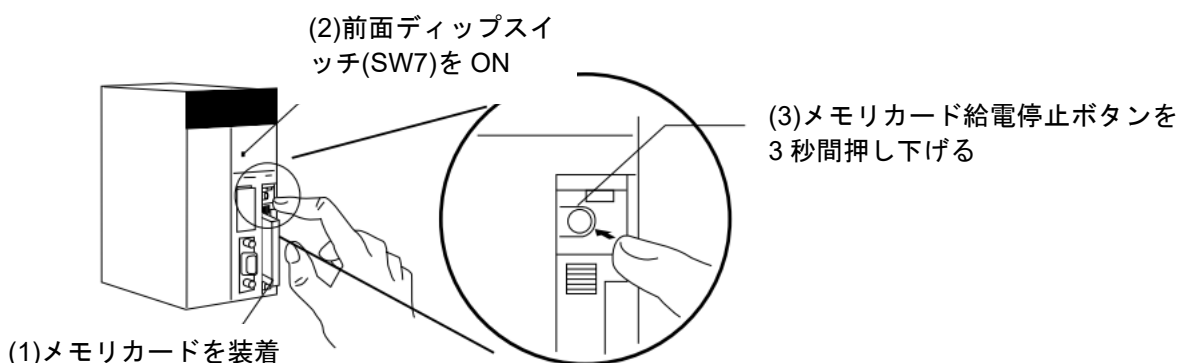
用意するメモリカードは、カタログ(SBCA-014)またはマニュアル(No.SBCA-318)より選定してください。

メモリカード

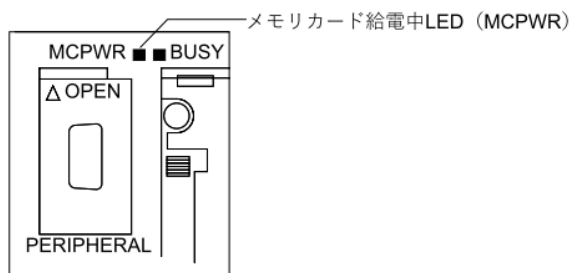


4.2. CS1D-CPU□□S のデータをメモリカードに保存する

- (1) CS1D-CPU□□S にメモリカードを装着します。
- (2) 前面のディップスイッチ(SW7)を ON します。
- (3) メモリカード給電停止ボタンを 3 秒間押し下げます。



- (4) 給電停止ボタンを押し下げていると、メモリカード給電中 LED(MCPWR)が点灯から 1 回点滅します。その後メモリカードへデータ保存中点灯し、保存が完了すると消灯します。



4.3. 装置のユニットを CS1D-CPU□□SA へ置き換える

- (1) 装置の電源を OFF します。
- (2) ベースユニット(形 CS1D-BC082S)から CS1D-CPU□□S を取り外します。
この時、装着されている INNER ボード、メモリカードを CPU ユニットから取り外します。
- (3) ベースユニット(形 CS1D-BC082S)に CS1D-CPU□□SA を取り付けます。
(2) で取り外した INNER ボード、メモリカードを装着します。

4.4. メモリカードのデータを CS1D-CPU□□SA に書き込む

- (1) CS1D-CPU□□SA にメモリカードを装着します。
- (2) 前面のディップスイッチ(SW7)を ON します。
- (3) 電源 ON します。
- (4) 電源 ON すると、メモリカード給電中 LED(MCPWR)が点灯から 1 回点滅します。
その後 CPU ユニットへのデータ書込み中点灯し、書込みが完了すると消灯します。
- (5) 前面のディップスイッチ(SW7)を OFF します。

5. サポートツール(CX-Programmer)を用いた置き換え方法

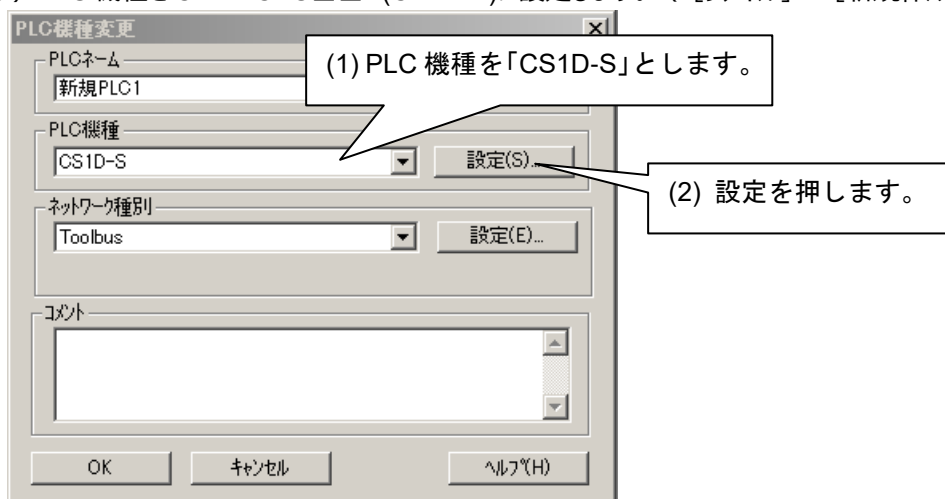
5.1. 使用可能サポートツールについて

使用可能なサポートツールは、CX-Programmer Ver.4.0 以降で両方の CPU ユニットと接続が可能です。
ただし、CPU ユニットのバージョンによって、使用可能な CX-Programmer のバージョンも変わりますので、CS1D-CPU□□S で使用している機能に合わせて、CX-Programmer のバージョンも選定してください。

5.2. CS1D-CPU□□S からデータを読み出す(CX-Programmer)

CX-Programmer を使用して、CS1D-CPU□□S からラダープログラム、PLC システム設定、データメモリ などを読み出す手順を説明します。

- (1) CS1D-CPU□□S とパソコンを周辺ツール接続用ケーブルで接続します。
- (2) CX-Programmer を立ち上げます。([スタートメニュー] - [プログラム] - [OMRON] - [CX-One] - [CX-Programmer] - [CX-Programmer])
- (3) PLC 機種を CS1D-CPU□□S(CS1D-S)に設定します。([ファイル] - [新規作成])



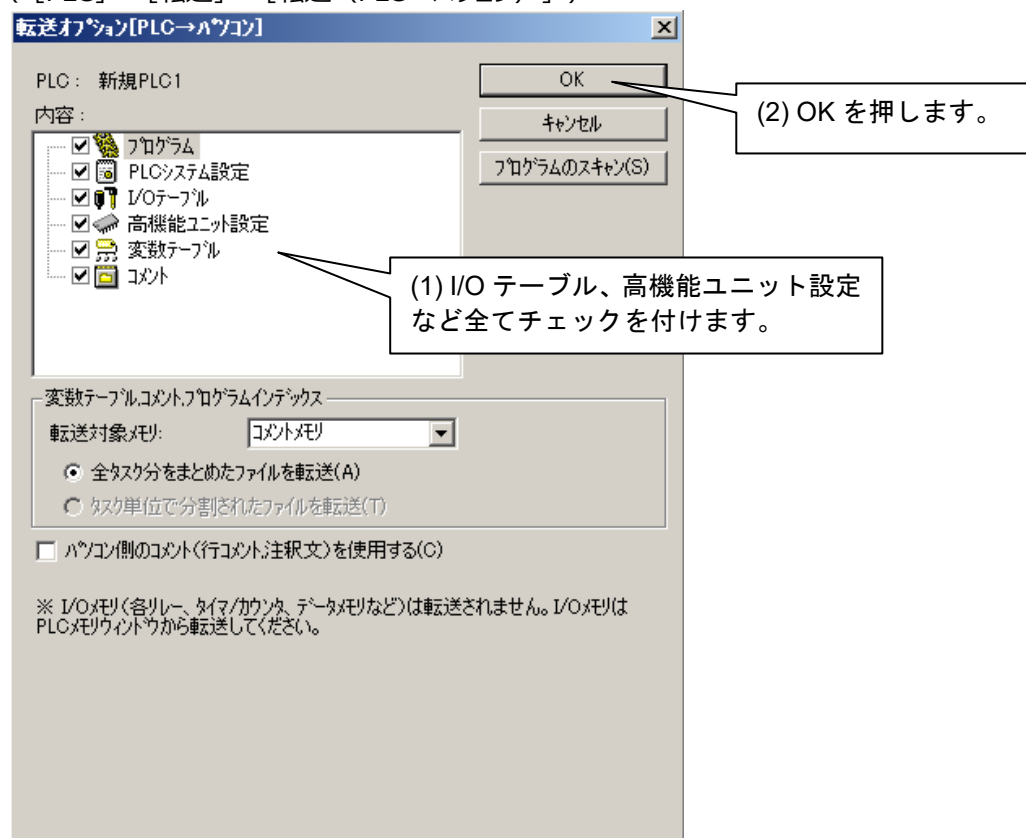
(4) (1) で接続した接続手段を設定します。



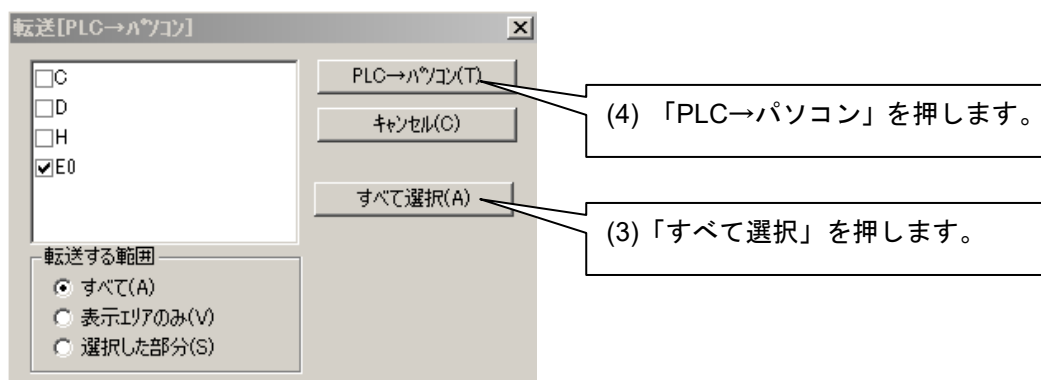
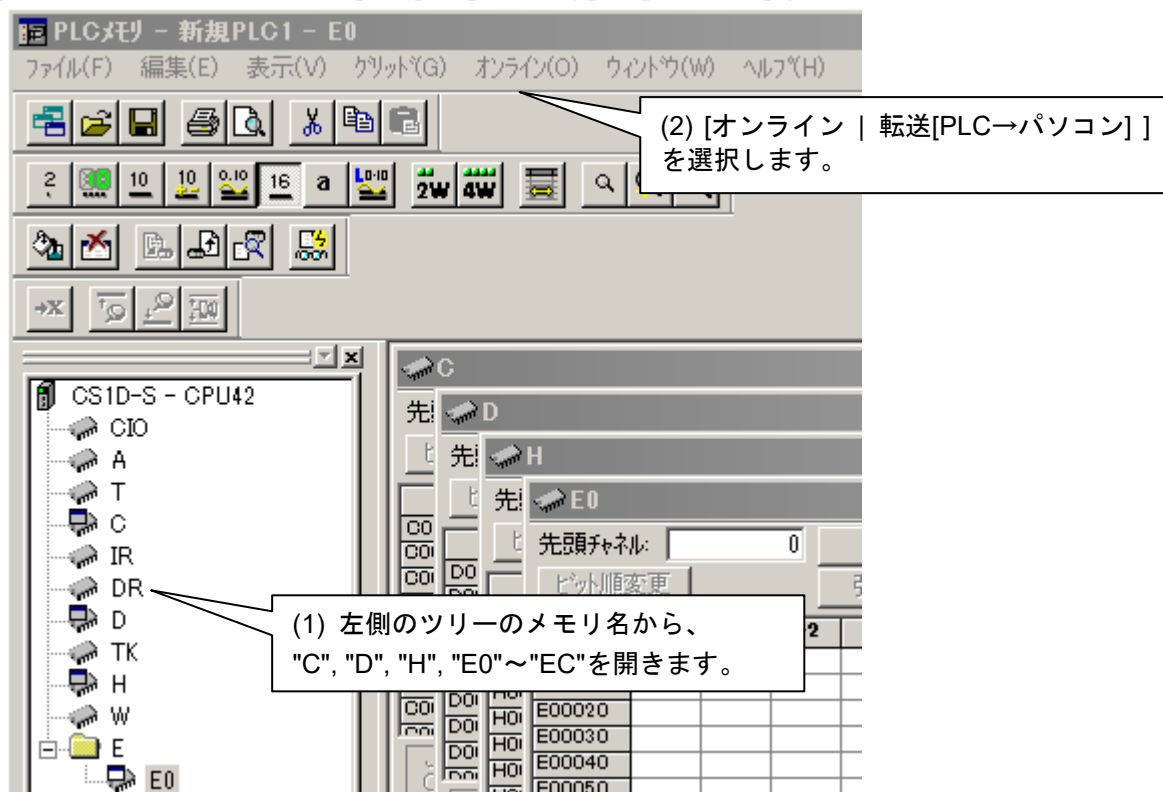
(5) PLC にオンライン接続します。([PLC | オンライン接続])

(6) プログラム、PLC システム設定、I/O テーブル、高機能ユニット設定、変数テーブル、コメントを読み出します。

([PLC] - [転送] - [転送 (PLC→パソコン)])



(7) PLC メモリを読み出します。([PLC] - [PLC 情報] - [PLC メモリ])



(8) CX-Programmer をオフラインにします。([PLC] - [オンライン接続])

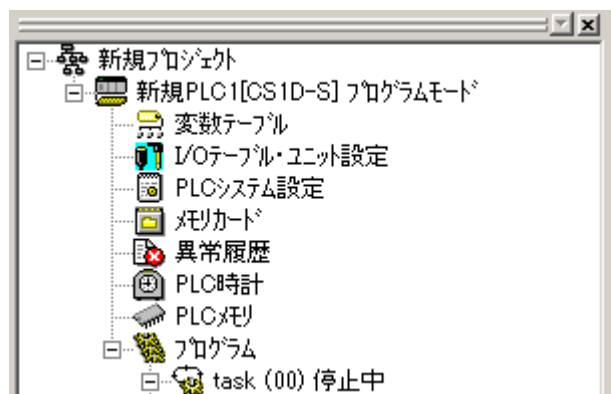
(9) 名前を付けてファイルに保存します。([ファイル] - [名前を付けて保存])

(10) CX-Programmer は起動したままとしておきます。(後の項で使います)

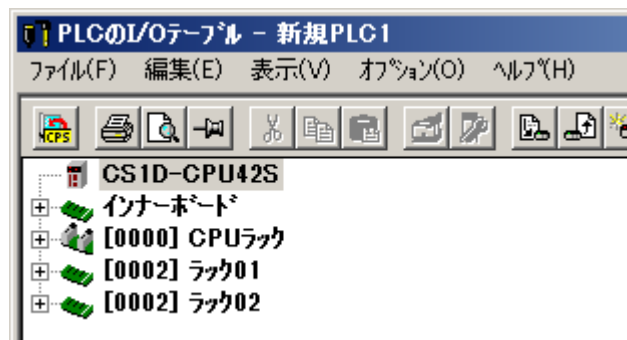
5.3. CS1D-CPU□□S からルーチングテーブルを読み出す(CX-Integrator)

CX-Integrator を使用して、CS1D-CPU□□S からルーチングテーブルを読み出す手順を説明します。

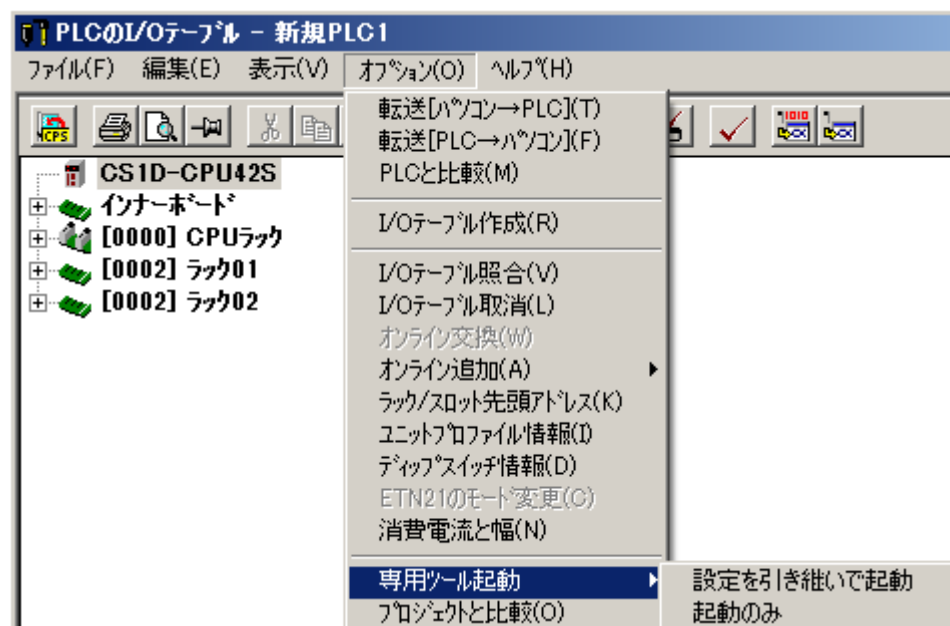
- (1) CX-Programmer のワークスペースから I/O テーブル・ユニット設定をダブルクリックして I/O テーブルを開きます。



- (2) I/O テーブルで PLC を選択します。



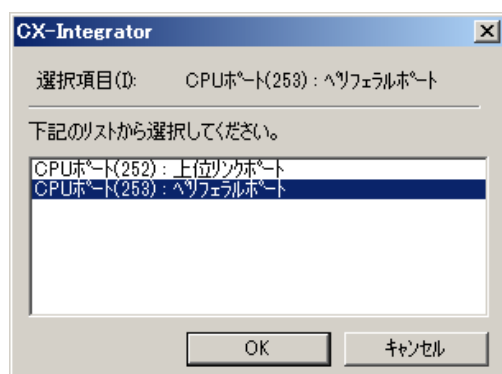
- (3) CX-Integrator を起動します。([オプション] - [専用ツール起動] - [設定を引き継いで起動])



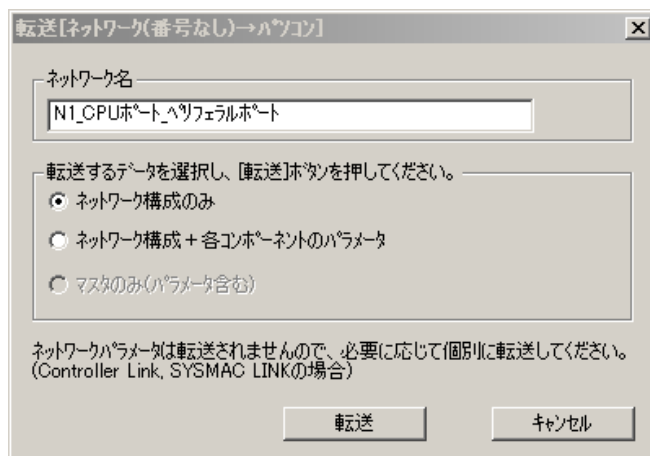
(4) CX-Integrator が起動します。



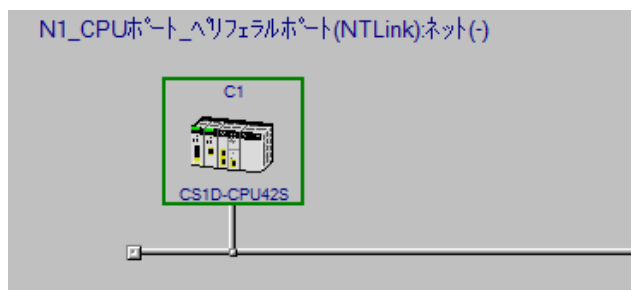
(5) 下記画面で、PC を接続しているポートを選択します。



(6) 下記画面で、「ネットワーク構成のみ」を選択して「転送」を押します。



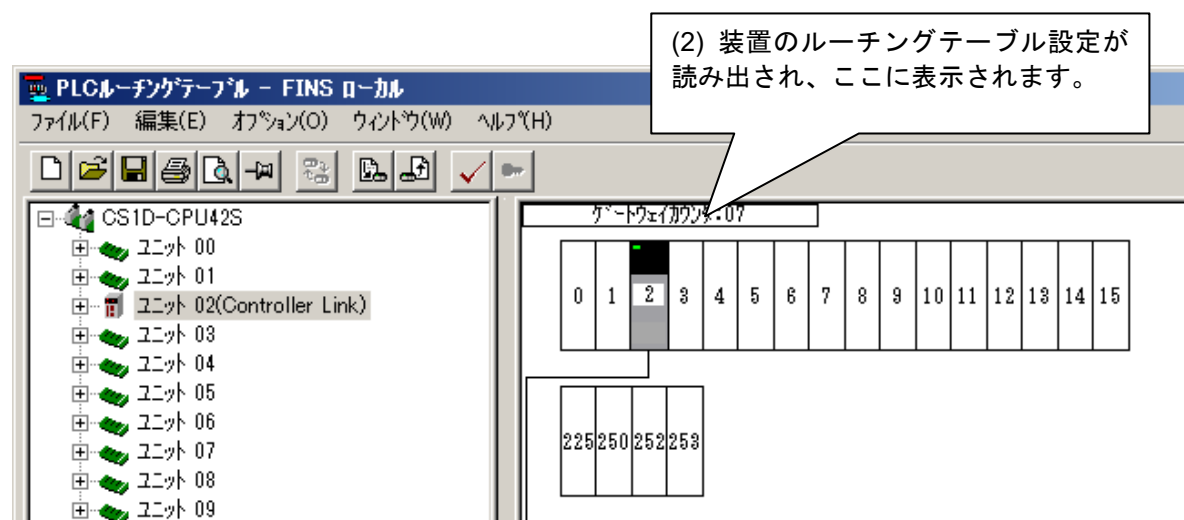
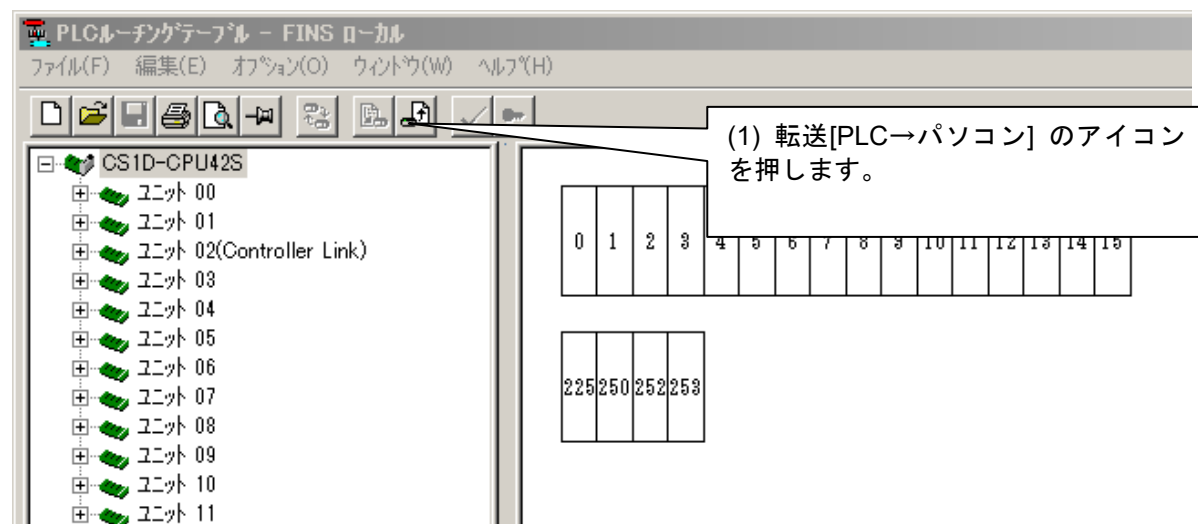
このような画面が表示されます。



(7) ルーチングテーブル設定ツールを起動します。([ツール] - [ルーチングテーブル設定ツール])



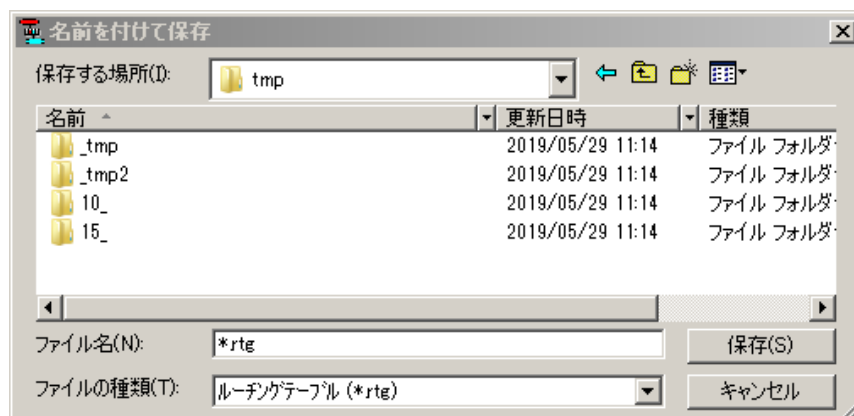
このような画面が開きます。



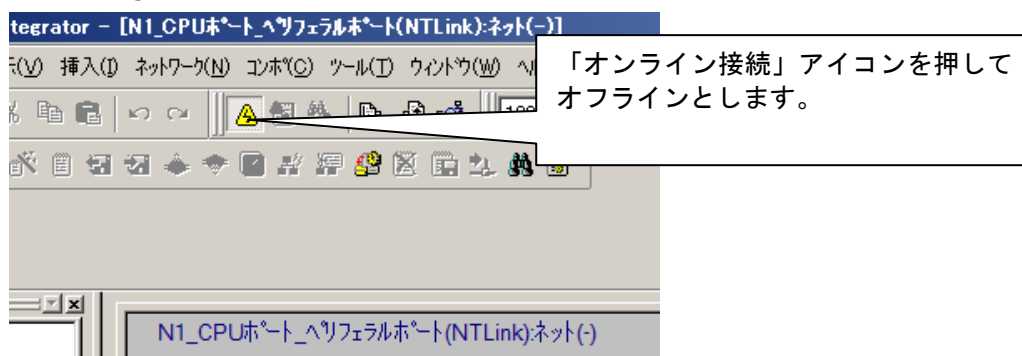
【解説】ルーチングテーブル設定がない場合は、表示は変化しません。

(8) ルーティングテーブル設定を閉じます。([ファイル] - [終了])

画面に従って「ルーティングテーブル」をファイルに保存します。ファイル名は任意です。



(9) CX-Integrator をオフラインにします。



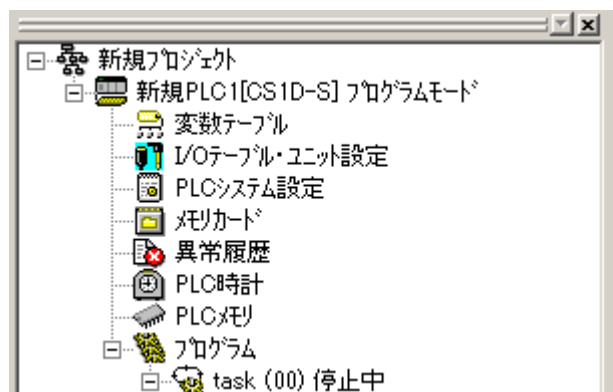
(10) CX-Integrator を終了します。([ファイル] - [終了])

「新規プロジェクトへの変更を保存しますか？」に対しては、「いいえ」を押します。

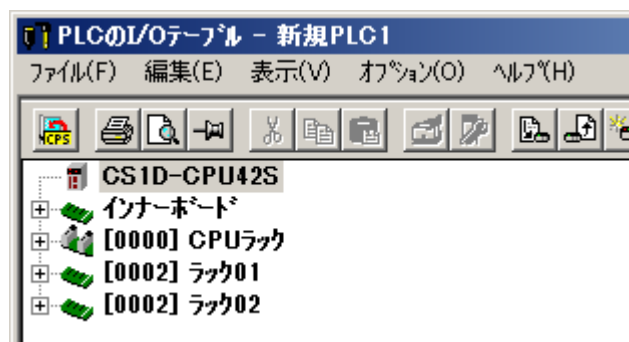
5.4. CS1D-CPU□□S からデータリンクテーブルを読み出す(CX-Integrator)

CX-Integrator を使用して、CS1D-CPU□□S からデータリンクテーブルを読み出す手順を説明します。

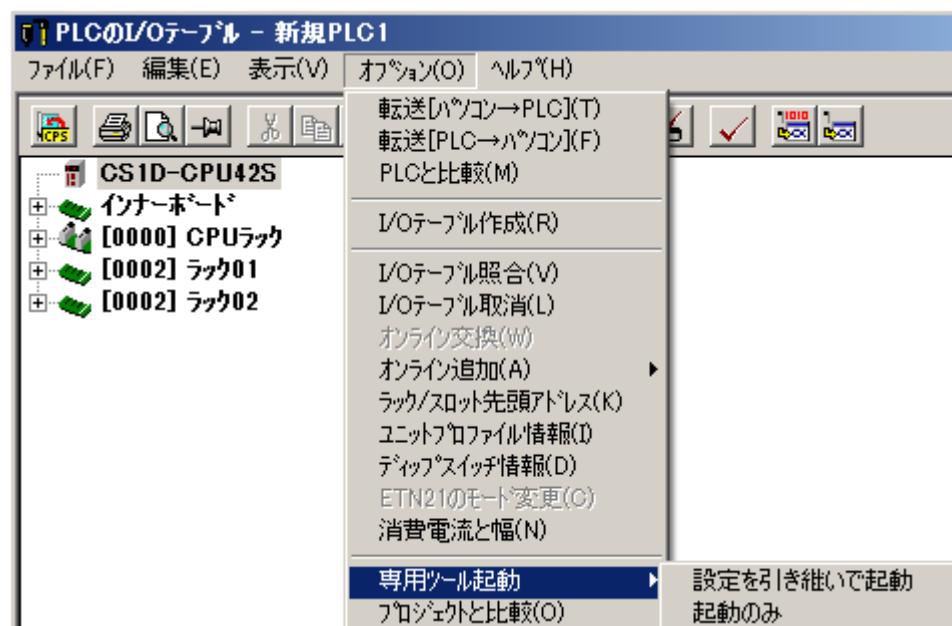
- (1) CX-Programmer のワークスペースから I/O テーブル・ユニット設定をダブルクリックして I/O テーブルを開きます。



- (2) I/O テーブルで PLC を選択します。



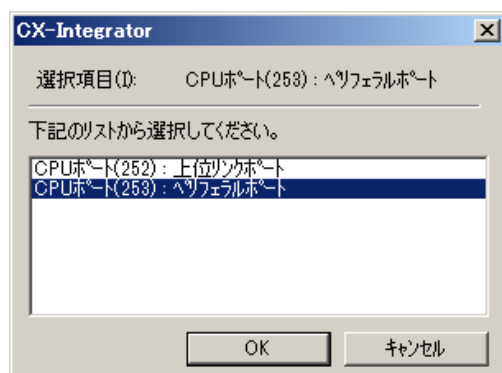
- (3) CX-Integrator を起動します。([オプション] - [専用ツール起動] - [設定を引き継いで起動])



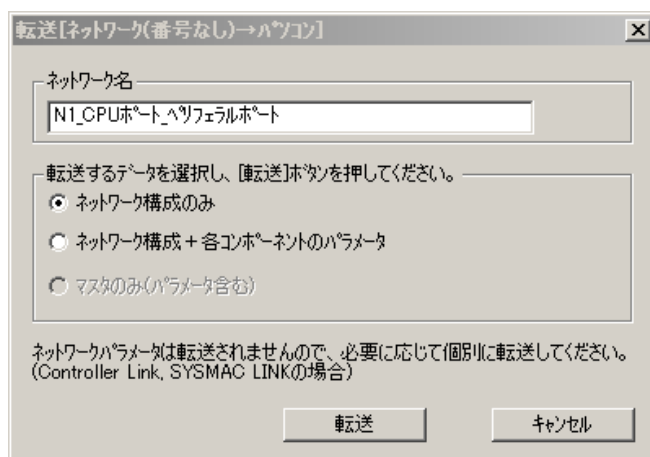
(4) CX-Integrator が起動します。



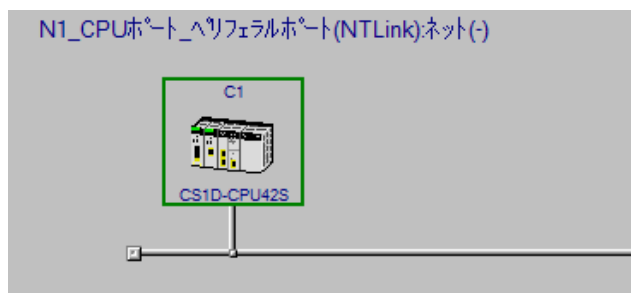
(5) 下記画面で、PC を接続しているポートを選択します。



(6) 下記画面で、「ネットワーク構成のみ」を選択して「転送」を押します。

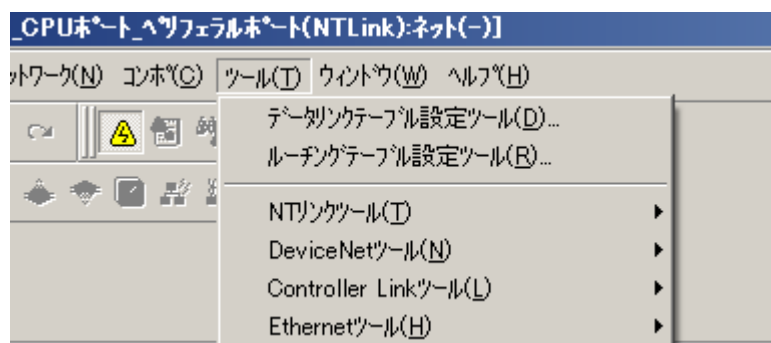


このような画面が表示されます。



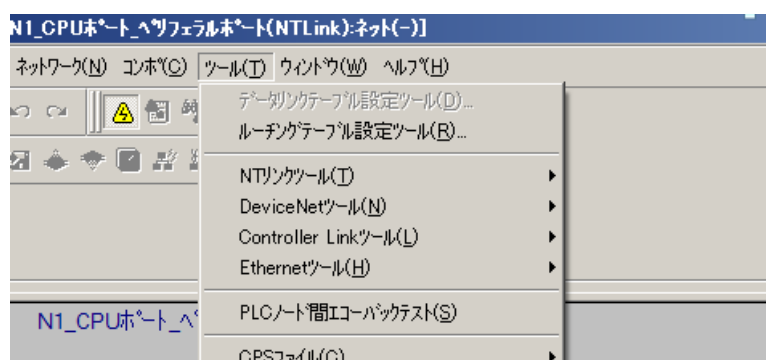
(7) CX-Integrator からデータリンクテーブル設定ツールを起動します。

([ツール] - [データリンクテーブル設定ツール])

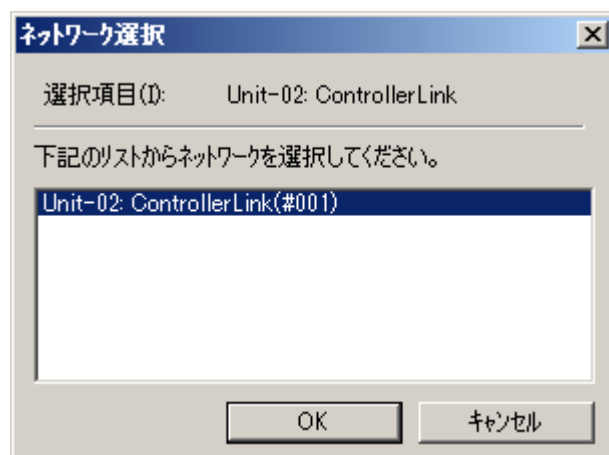


データリンクテーブル設定を必要としない構成の場合は、データリンクテーブル設置ツールは選択できません。

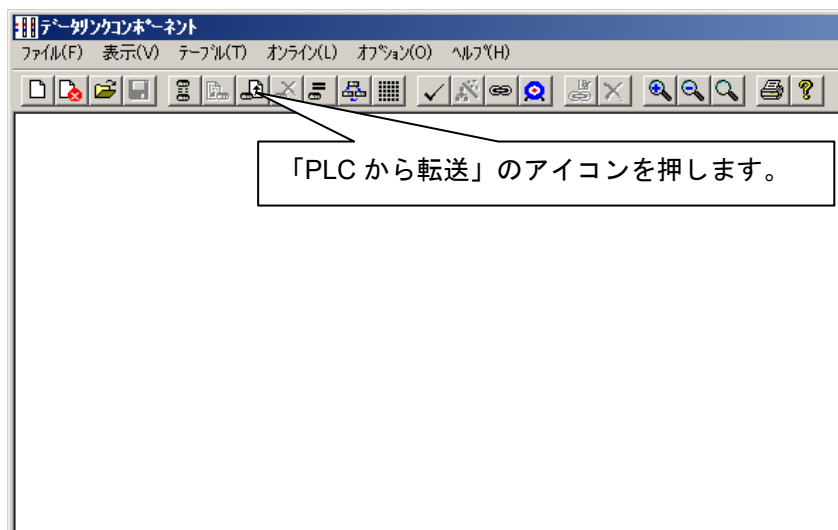
この場合、以降の手順は不要です。



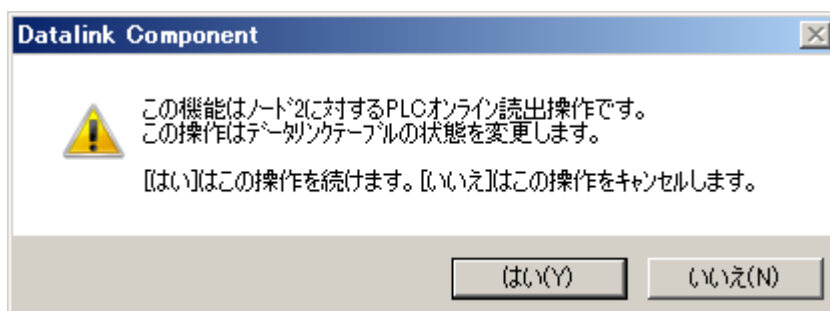
下記画面で、データリンクテーブルを読み出すネットワークを選択します。



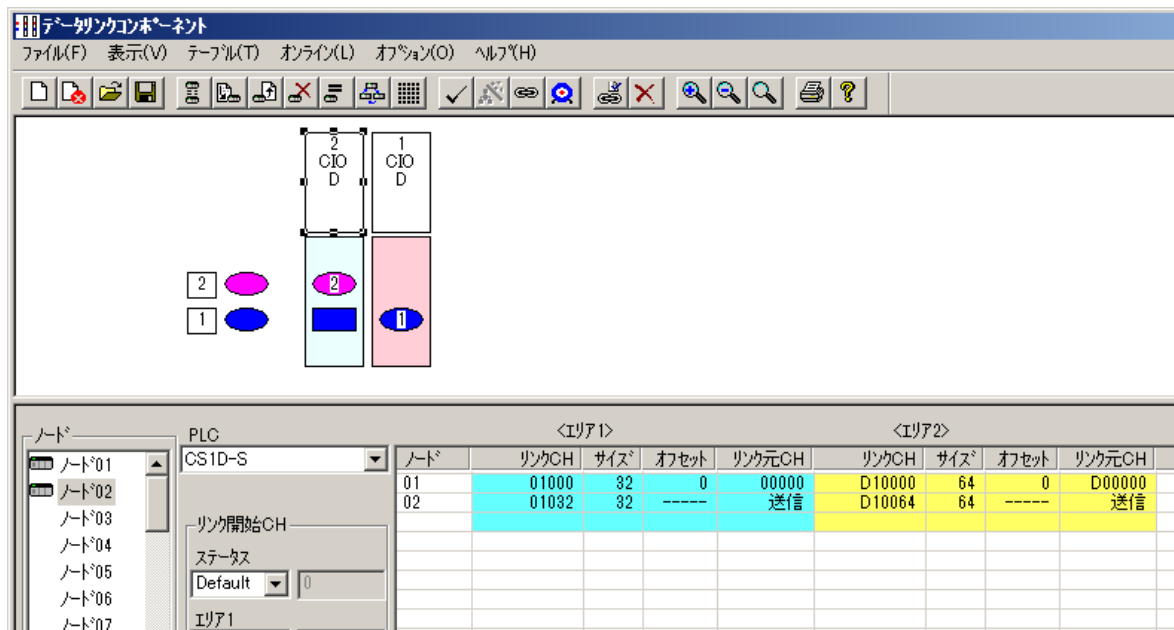
このような画面が開きます。



「はい」を押します。

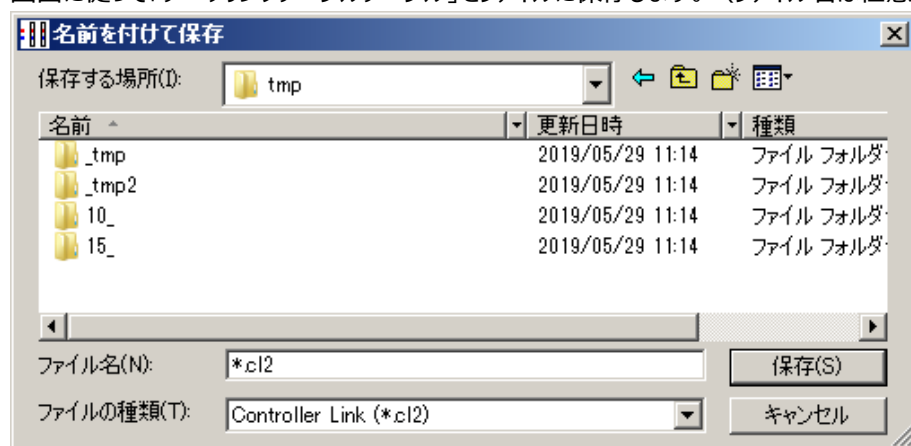


装置のデータリンクテーブル設定が読み出され、このように表示されます。

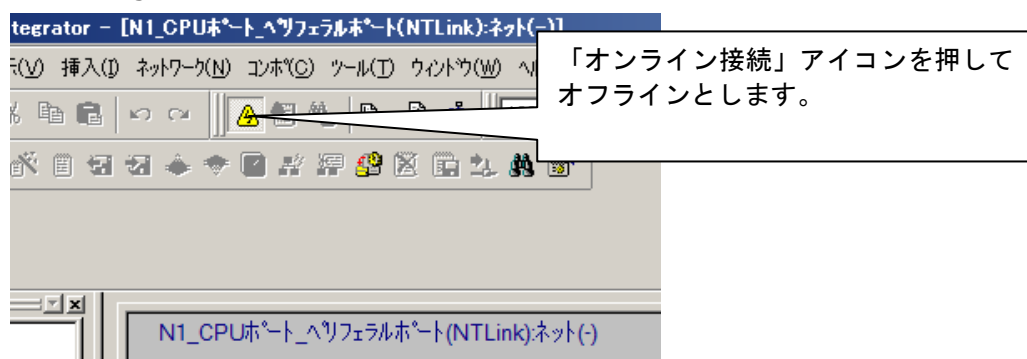


(8) データリンクテーブル設定を閉じます。([ファイル] - [終了])

画面に従って「データリンクテーブル」をファイルに保存します。(ファイル名は任意です)



(9) CX-Integrator をオフラインにします。



(10) CX-Integrator を終了します。([ファイル] - [終了])

「新規プロジェクトへの変更を保存しますか？」に対しては、「いいえ」を押します。

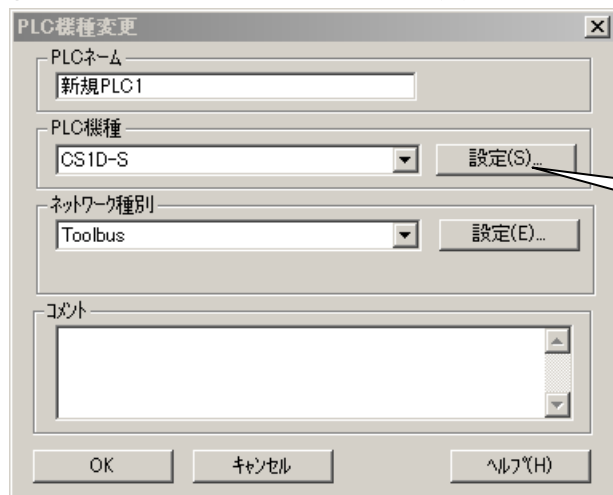
(11) CPU ユニットに複数のネットワークがある場合は、ネットワーク毎に読出しが必要です。

本章の (1) ～ (1 0) をネットワーク数分実行します。

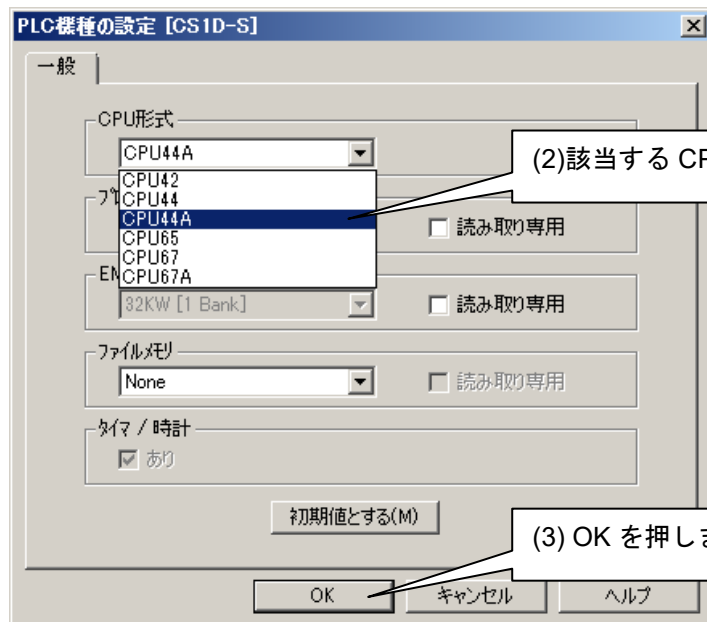
5.5. プログラムを CS1D-CPU□□SA 用に変換・変更する

CX-Programmer を使用して、CS1D-CPU□□SA 用にプログラムに変換する手順を説明します。

- (1) PLC 機種を"CS1D-CPU□□SA"に変更します。([PLC] - [機種変更])



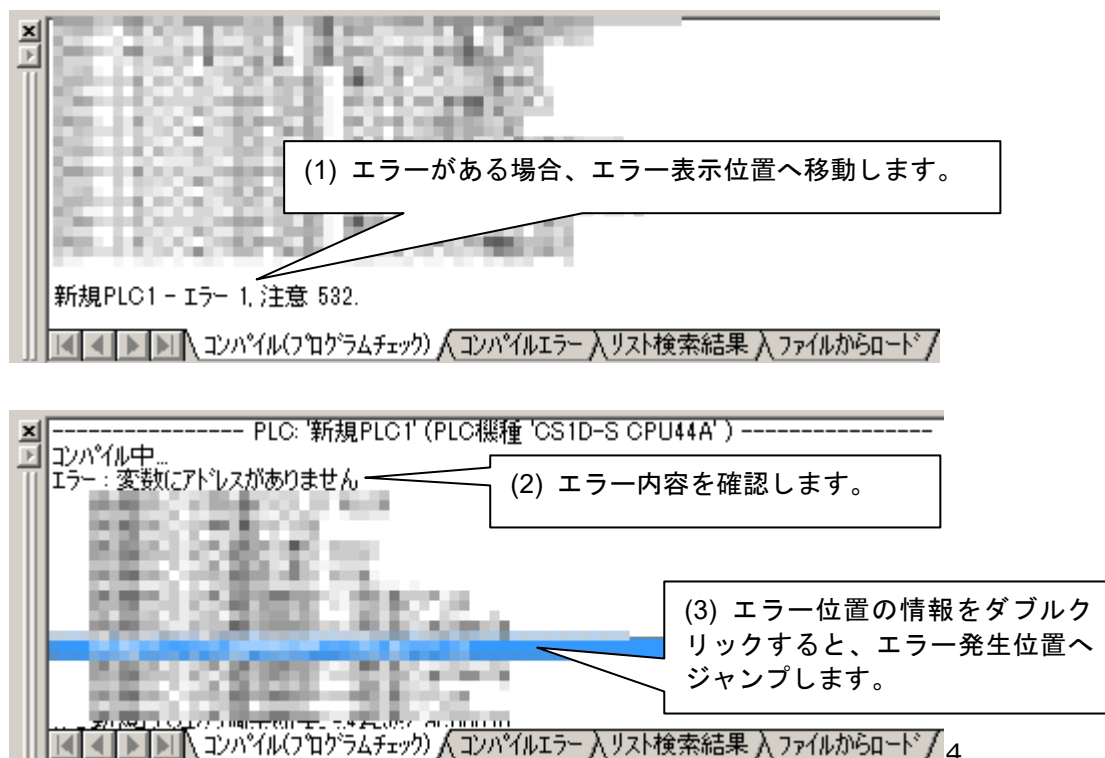
(1) 「PLC 機種」の「設定」を押します。



(2) 該当する CPU 形式を選択します。

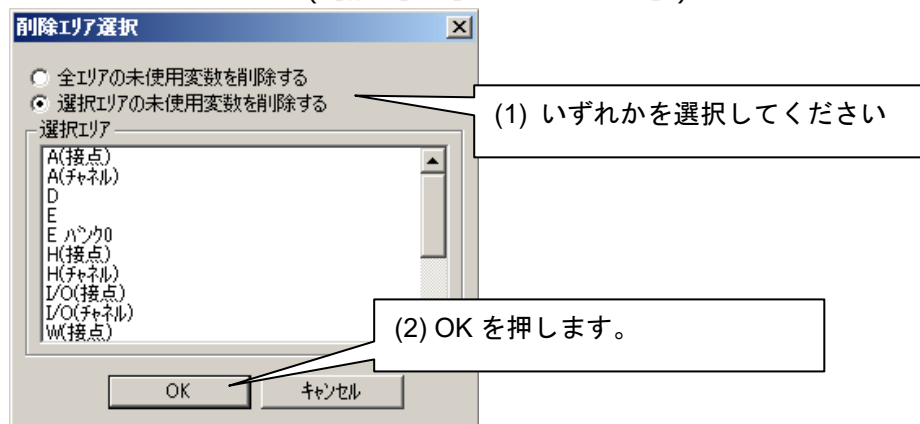
(3) OK を押します。

- (2) 機種変換によるコンパイル(プログラムチェック)が実行されます。変換結果はアウトプットウィンドウに表示されます。
エラーがある場合は修正します。



【解説】

「変数にアドレスがありません」のエラーの場合、元のプログラムで未使用変数の場合があります。未使用変数は、以下の方法で一括削除可能です。([編集] - [未使用変数削除])



- (3) 再度コンパイル(プログラムチェック)を行います。エラーが検出された場合は修正してください。
([プログラム] - [コンパイル (プログラムチェック)])。エラーがなくなるまで繰り返します。
- (4) 名前を付けてファイルに保存します。([ファイル] - [名前を付けて保存])
- (5) CX-Programmer は起動したままとしておきます。(次の項で使います)

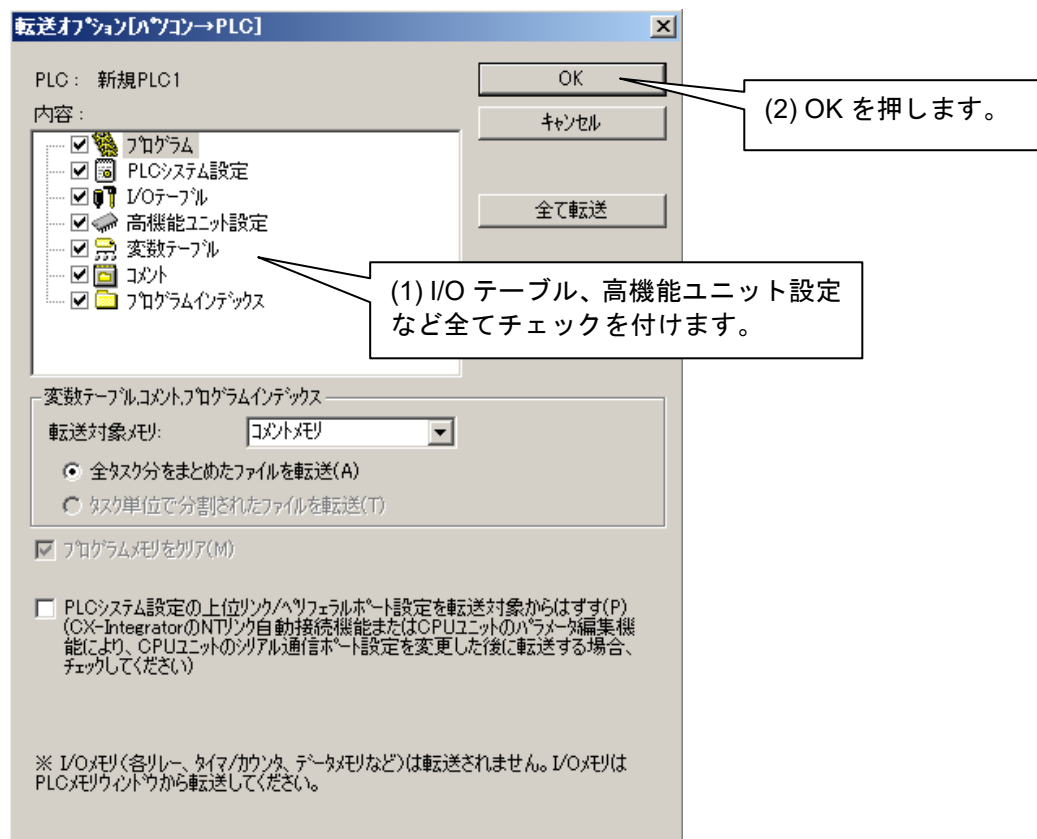
5.6. 装置のユニットを CS1D-CPU□□SA へ置き換える

- (1) 装置の電源を OFF します。
- (2) ベースユニット(形 CS1D-BC082S)から CS1D-CPU□□S を取り外します。
- (3) ベースユニット(形 CS1D-BC082S)に CS1D-CPU□□SA を取り付けます。
- (4) 装置のインターロックを確認して、電源を ON します。

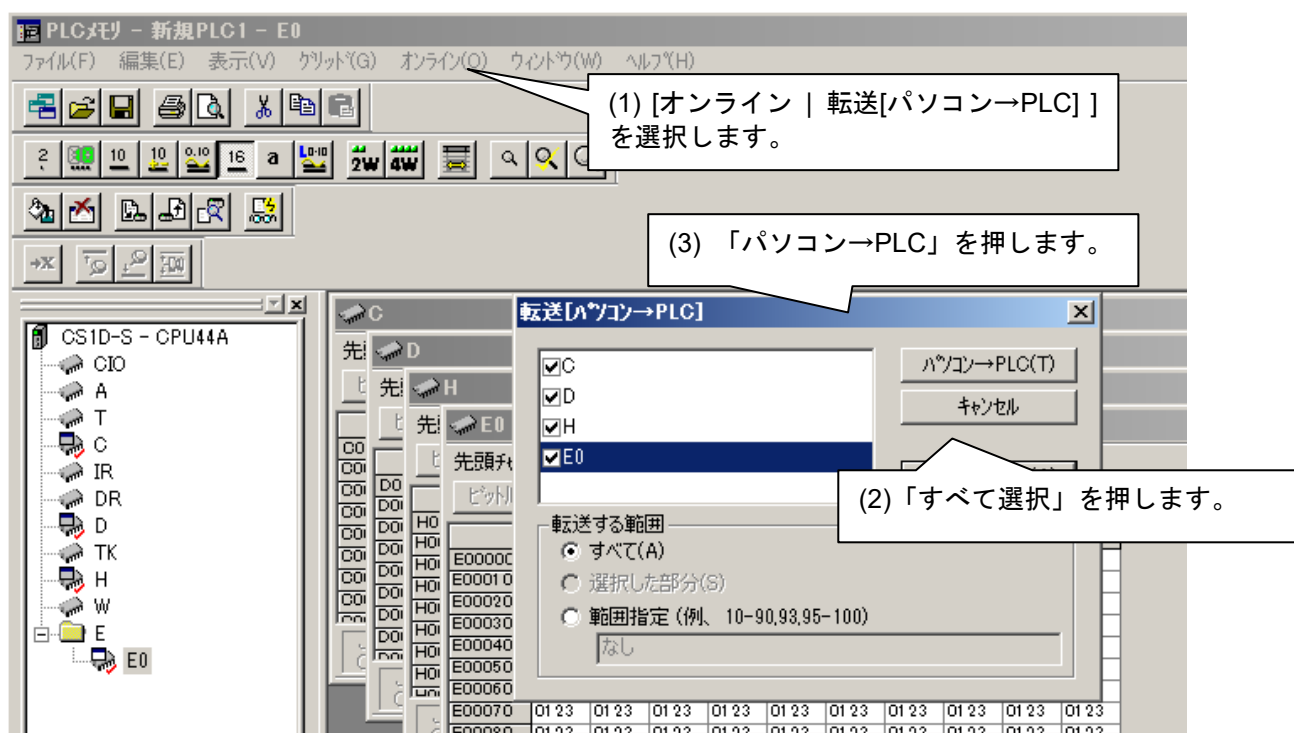
5.7. CS1D-CPU□□SA へデータを書き込む(CX-Programmer)

CX-Programmer を使用して、CS1D-CPU□□SA ヘラダープログラム、PLC システム設定、データメモリなどを書き込む手順を説明します。

- (1) CS1D-CPU□□SA とパソコンを周辺ツール接続用ケーブルなどで接続します。
- (2) PLC にオンライン接続します。([PLC] - [オンライン接続])
- (3) プログラム、PLC システム設定、I/O テーブル、高機能ユニット設定、変数テーブル、コメント、プログラムインデックスを転送します。([PLC] - [転送] - [転送 (パソコン→PLC)])



(4) PLC メモリを転送します。([PLC] - [PLC 情報] - [PLC メモリ])

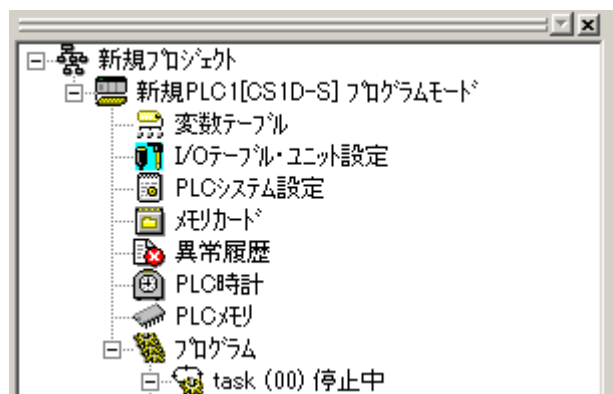


(5) CX-Programmer をオフラインにします。([PLC] - [オンライン接続])

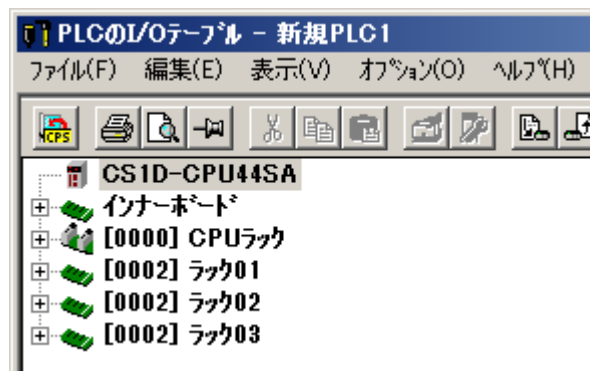
5.8. CS1D-CPU□□SA ヘルパーリングテーブルを書き込む(CX- Integrator)

CX-Integrator を使用して、CS1D-CPU□□S からルーチングテーブルを書き込む手順を説明します。

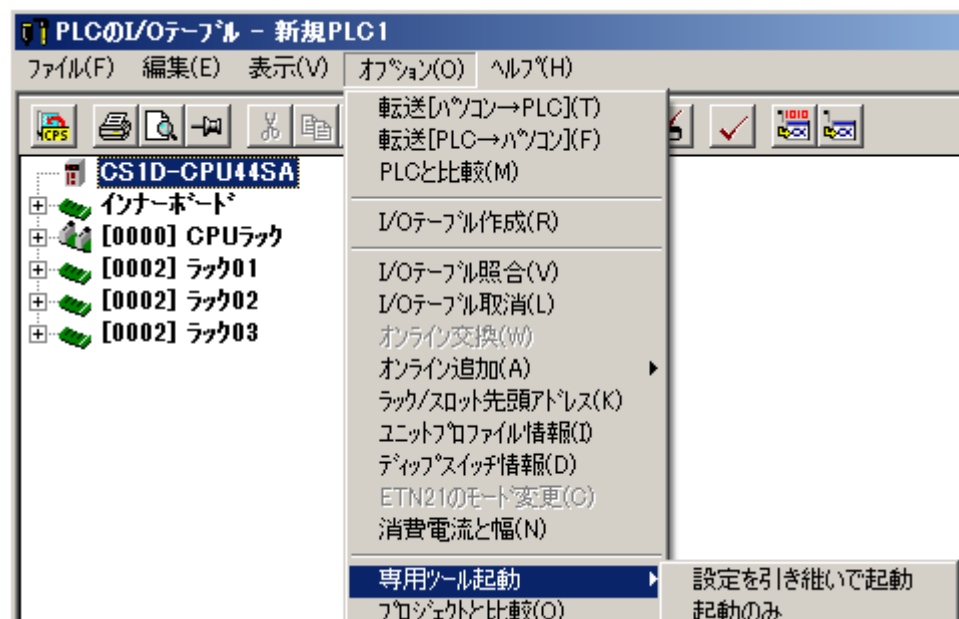
- (1) CX-Programmer のワークスペースから I/O テーブル・ユニット設定をダブルクリックして I/O テーブルを開きます。



- (2) I/O テーブルで PLC を選択します。



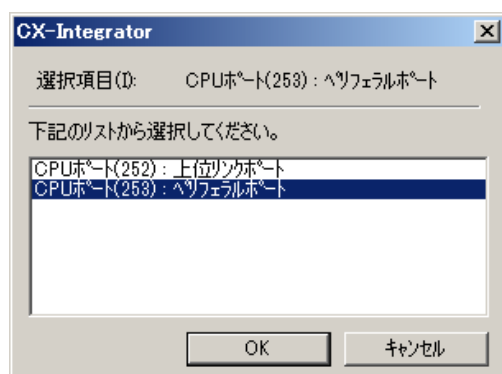
- (3) CX-Integrator を起動します。([オプション] - [専用ツール起動] - [設定を引き継いで起動])



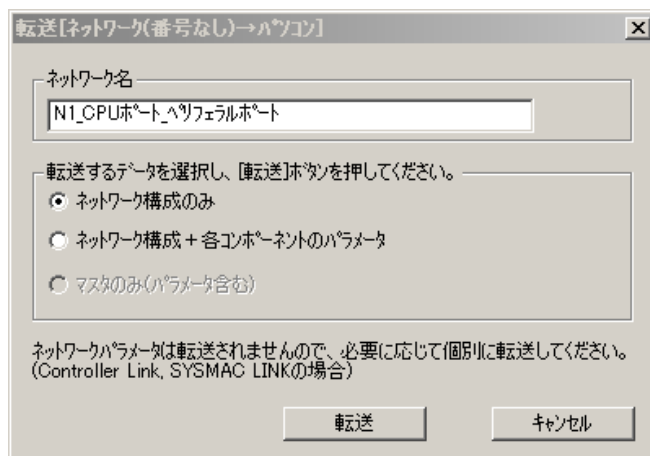
(4) CX-Integrator が起動します。



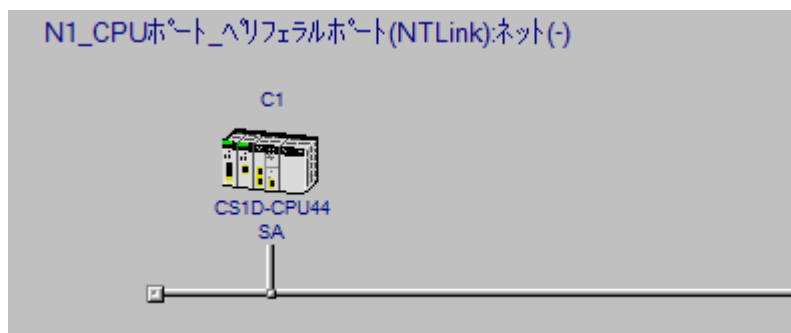
(5) 下記画面で、PC を接続しているポートを選択します。



(6) 下記画面で、「ネットワーク構成のみ」を選択して「転送」を押します。



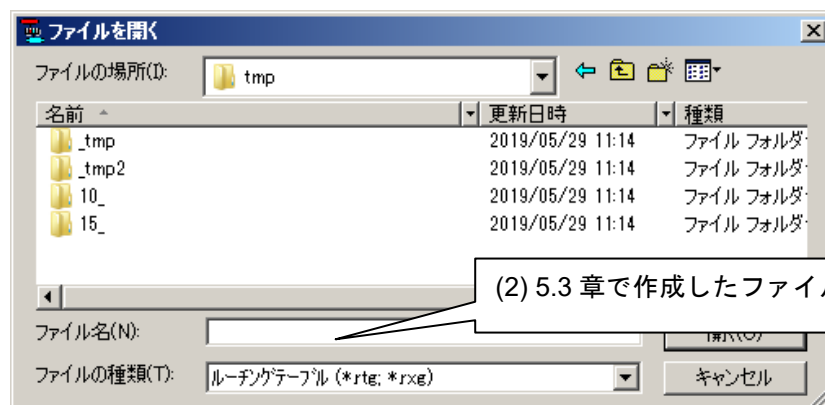
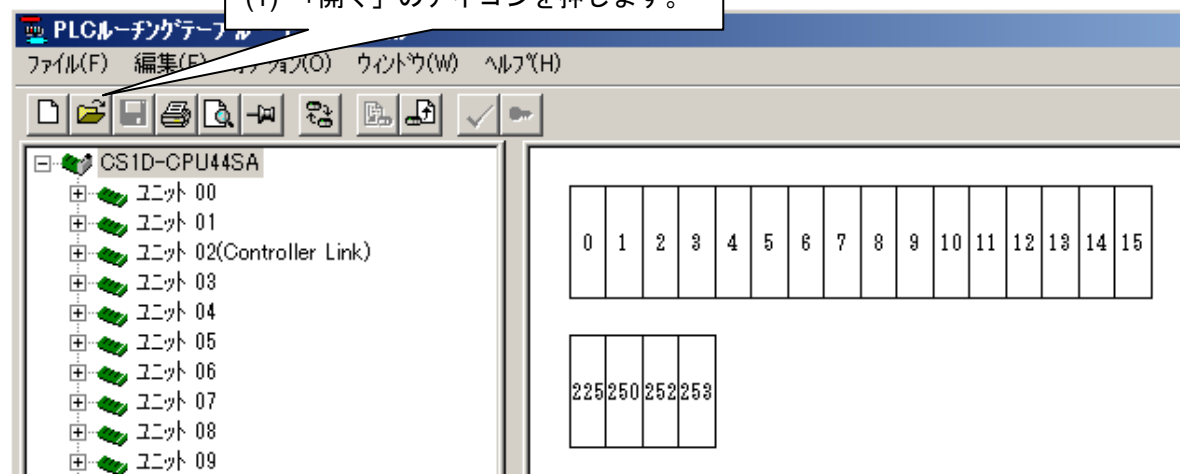
このような画面が表示されます。

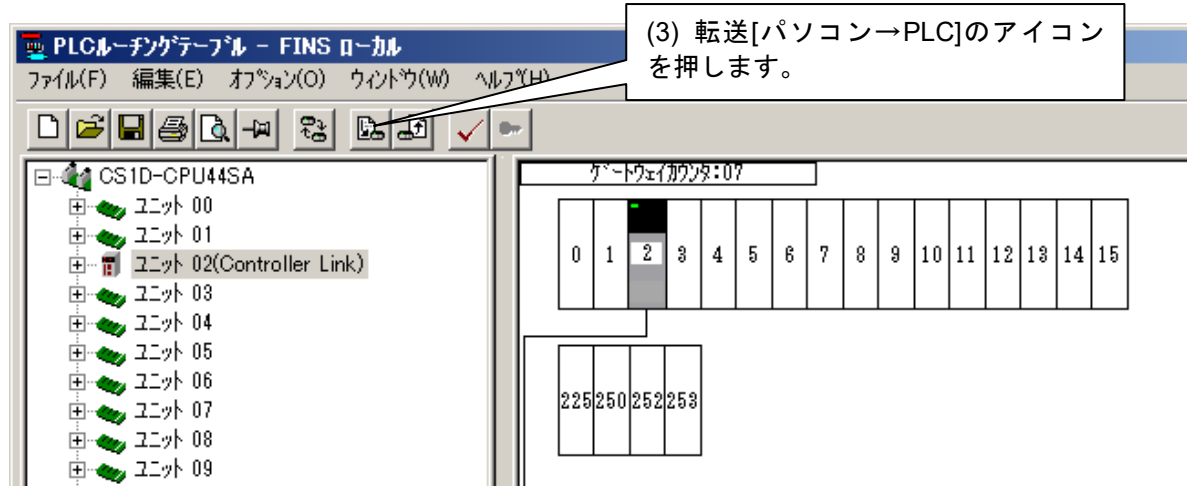


(7) ルーチングテーブル設定ツールを起動します。([ツール] - [ルーチングテーブル設定ツール])

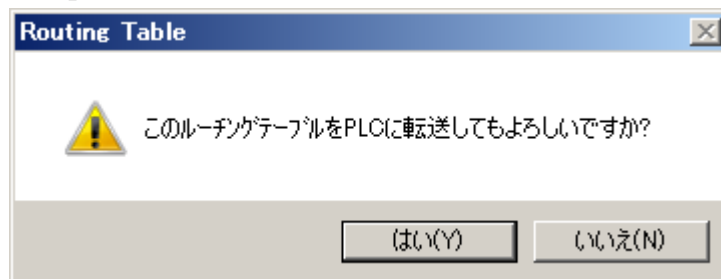


(1) 「開く」のアイコンを押します。

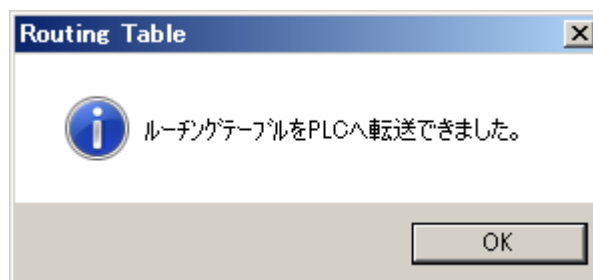




「はい」を押します。

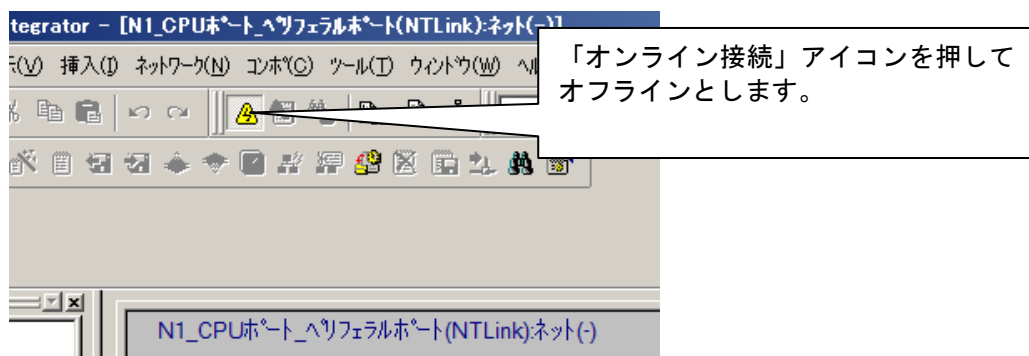


以下のように表示されれば、正常に転送できました。



(8) ルーチングテーブル設定を閉じます。([ファイル] - [終了])

(9) CX-Integrator をオフラインにします。



(10) CX-Integrator を終了します。([ファイル] - [終了])

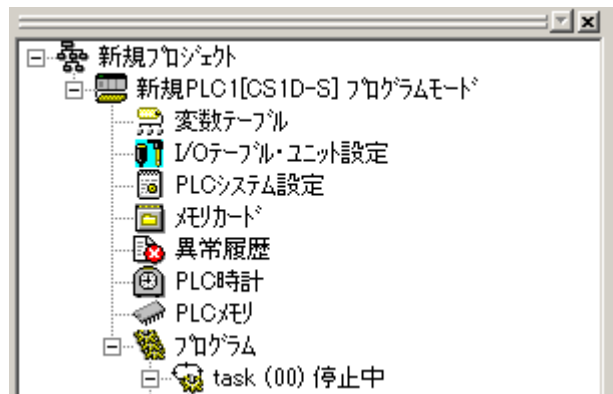
「新規プロジェクトへの変更を保存しますか？」に対しては、「いいえ」を押します。

5.9. CS1D-CPU□□SA ヘータリンクテーブルを書き込む(CX- Integrator)

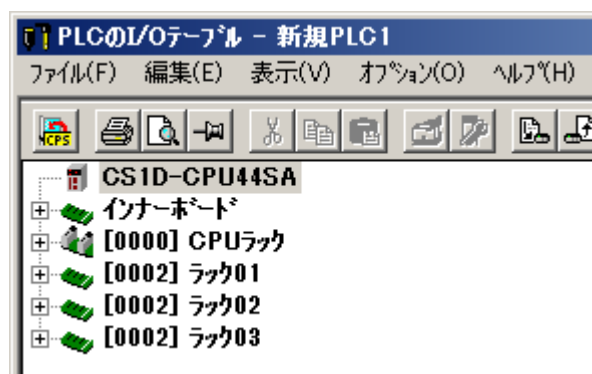
CX-Integrator を使用して、CS1D-CPU□□S からデータリンクテーブルを書き込む手順を説明します。

前章でデータリンクテーブルの読出しが不要だった場合は、本章の手順は不要です。

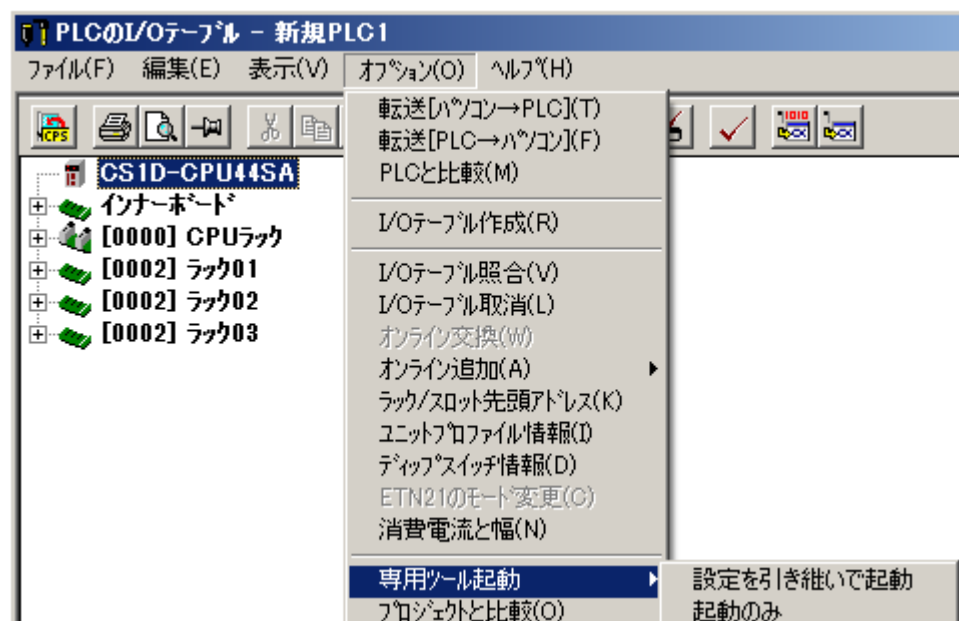
- (1) CX-Programmer のワークスペースから I/O テーブル・ユニット設定をダブルクリックして I/O テーブルを開きます。



- (2) I/O テーブルで PLC を選択します。



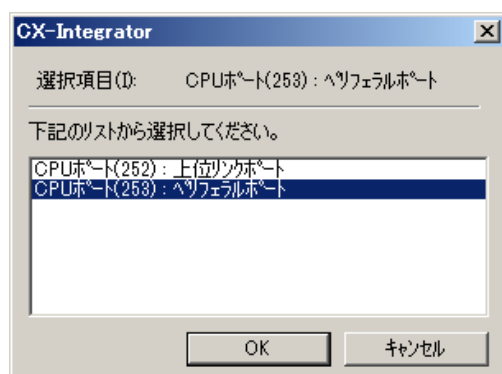
- (3) CX-Integrator を起動します。([オプション] - [専用ツール起動] - [設定を引き継いで起動])



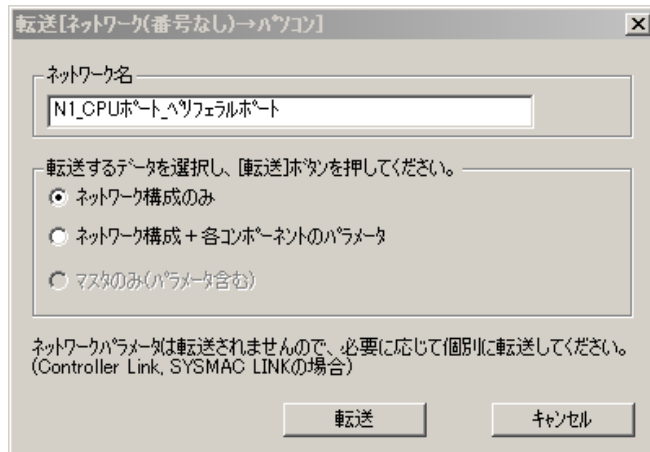
(4) CX-Integrator が起動します。



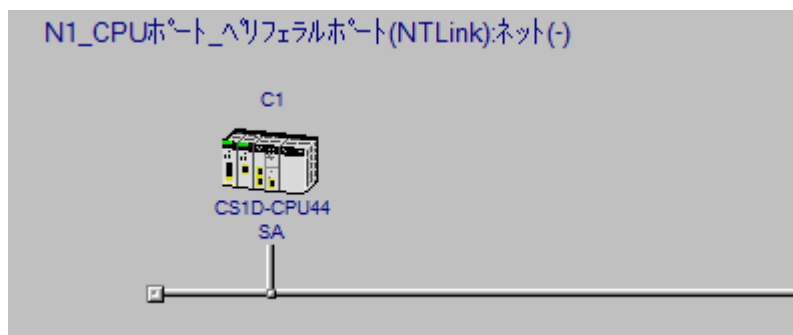
(5) 下記画面で、PC を接続しているポートを選択します。



(6) 下記画面で、「ネットワーク構成のみ」を選択して「転送」を押します。

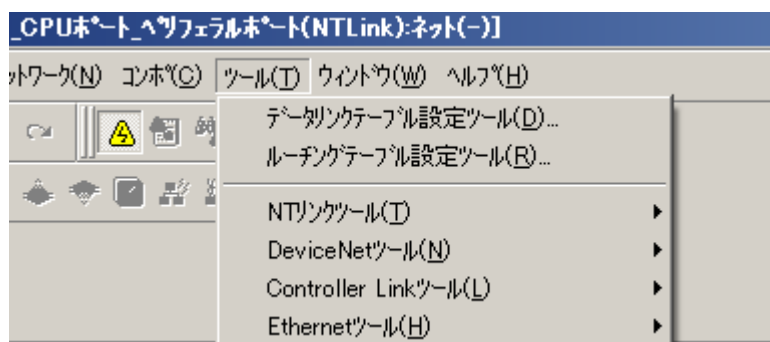


このような画面が表示されます。

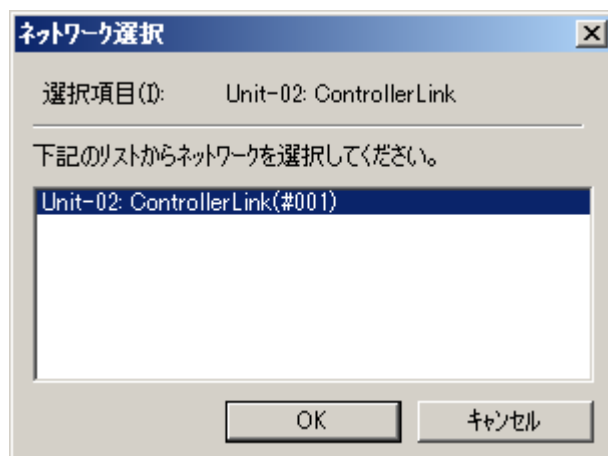


(7) CX-Integrator からデータリンクテーブル設定ツールを起動します。

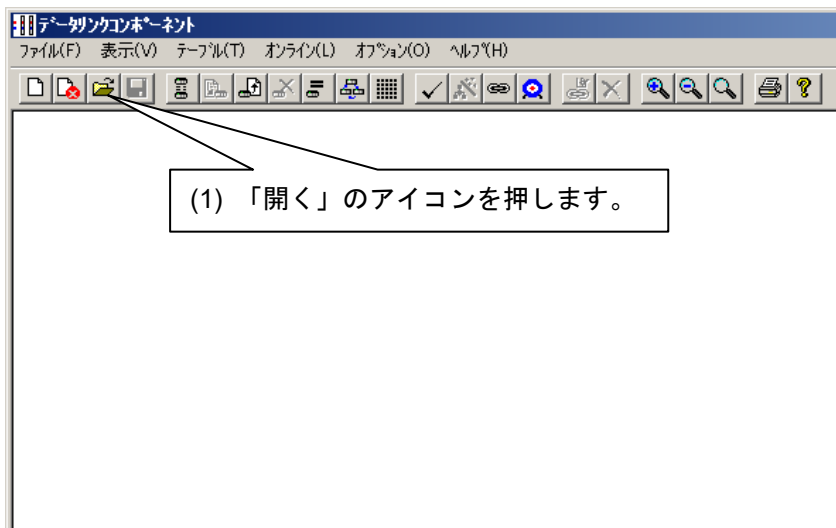
([ツール] - [ルーチングテーブル設定ツール])

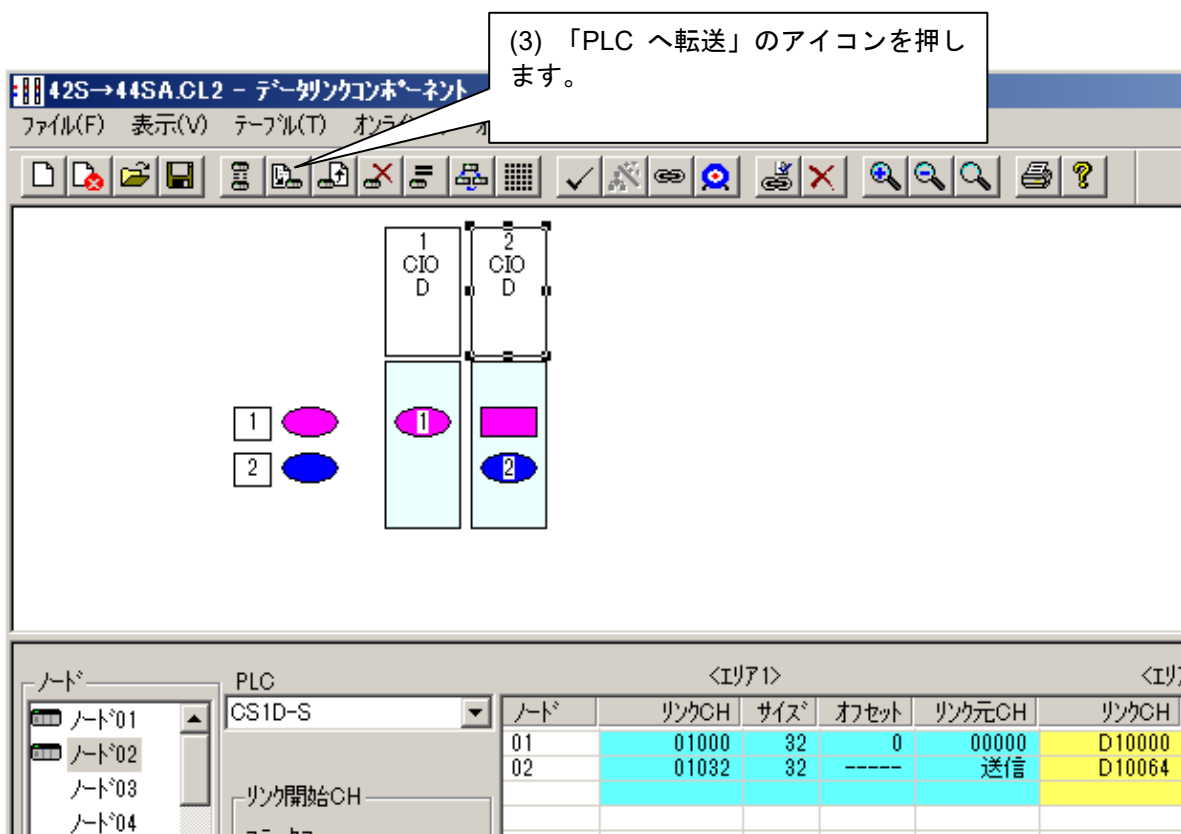
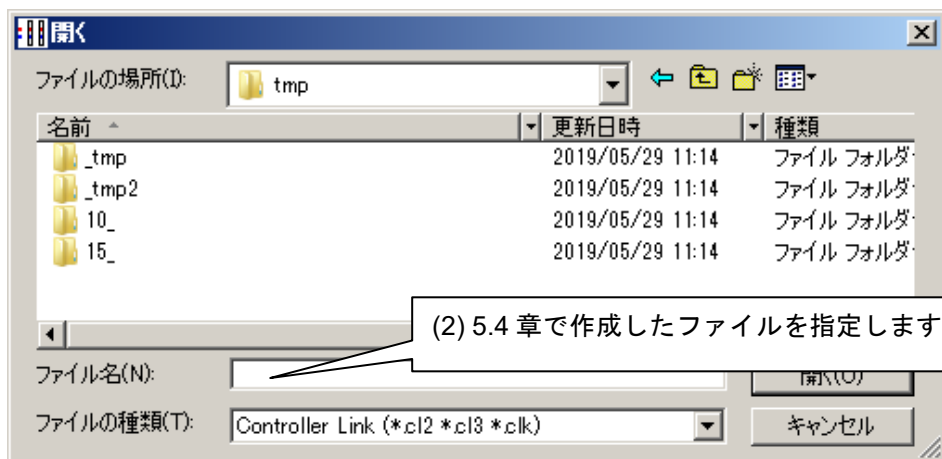


下記画面で、データリンクテーブルを読み出すネットワークを選択します。

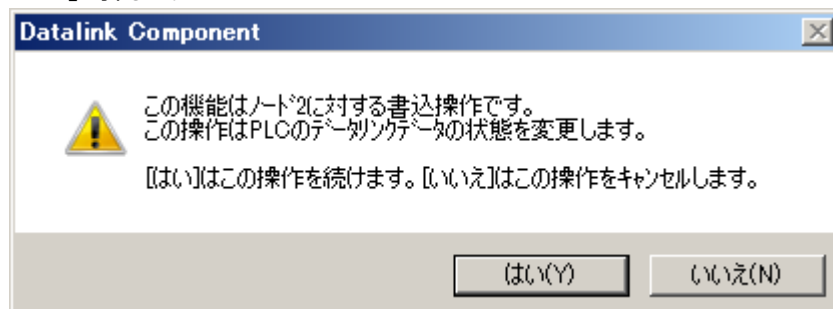


このような画面が開きます。

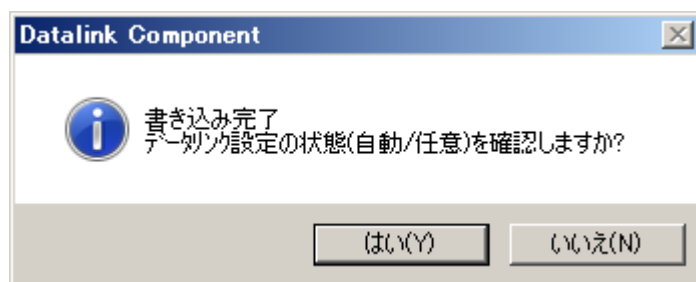




「はい」を押します。

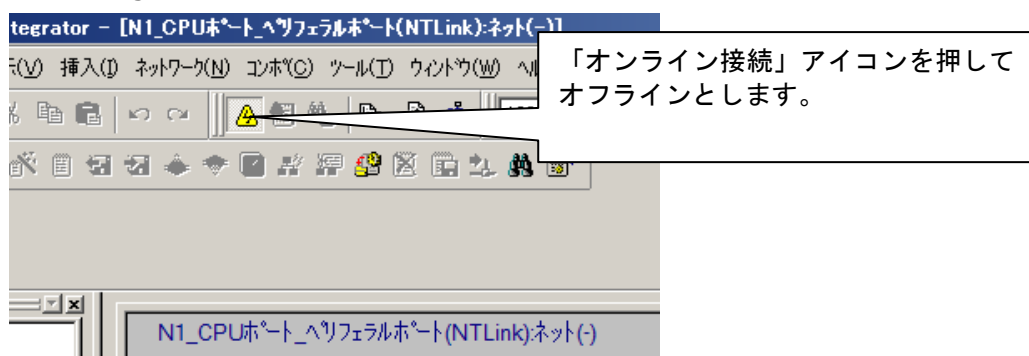


以下のように表示されれば、正常に転送できました。



(8) データリンクテーブル設定を閉じます。([ファイル] - [終了])

(9) CX-Integrator をオフラインにします。



(10) CX-Integrator を終了します。([ファイル] - [終了])

「新規プロジェクトへの変更を保存しますか？」に対しては、「いいえ」を押します。

(11) CPU ユニットに複数のネットワークがある場合は、ネットワーク毎に書き込みが必要です。

本章の (1) ~ (10) をネットワーク数分実行します。

本誌には主に機種のご選定に必要な内容を掲載しており、ご使用上の注意事項等を掲載していない製品も含まれています。本誌に注意事項等の掲載のない製品につきましては、ユーザーズマニュアル掲載のご使用上の注意事項等、ご使用の際に必要な内容を必ずお読みください。

- 本誌に記載の標準価格はあくまで参考であり、確定されたユーザー購入価格を表示したものではありません。本誌に記載の標準価格には消費税が含まれておりません。
- 本誌にオープン価格の記載がある商品については、標準価格を決めていません。
- 本誌に記載されているアプリケーション事例は参考用ですので、ご採用に際しては機器・装置の機能や安全性をご確認の上、ご使用ください。
- 本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
- 本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物（又は技術）に該当するものを輸出（又は非居住者に提供）する場合は同法に基づく輸出許可、承認（又は役務取引許可）が必要です。
- 規格認証/適合対象機種などの最新情報につきましては、当社Webサイト（www.fa.omron.co.jp）の「規格認証/適合」をご覧ください。

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

●製品に関するお問い合わせ先
お客様相談室

フリーダイヤル **0120-919-066**

携帯電話・PHS・IP電話などではご利用いただけませんので、下記の電話番号へおかけください。

電話 **055-982-5015**（通話料がかかります）

■営業時間：8:00～21:00 ■営業日：365日

●FAXやWebページでもお問い合わせいただけます。

FAX **055-982-5051** / www.fa.omron.co.jp

●その他のお問い合わせ

納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。
オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。

オムロン制御機器の最新情報をご覧ください。

www.fa.omron.co.jp

緊急時のご購入にもご利用ください。

オムロン商品のご用命は